

大阪医科薬科大学薬学部

研究業績

2025 年度
(2025 年 4 月～2026 年 3 月)

目次

医療薬学領域

病態分子薬理学研究室.....	3
薬品作用解析学研究室.....	5
薬物治療学Ⅰ研究室.....	7
薬物治療学Ⅱ研究室.....	11
病態生化学研究室.....	14
生体分析学研究室.....	19
薬剤学研究室.....	23

薬学臨床領域

製剤設計学研究室.....	26
社会薬学・薬局管理学研究室.....	31
臨床漢方薬学研究室.....	34
臨床薬学教育研究センター.....	35
衛生化学研究室.....	40

生物・予防薬領域

感染制御学研究室.....	43
生体機能解析学研究室.....	47
生化学研究室.....	48
薬品物理化学研究室.....	49
機能分子創製化学研究室.....	50

創薬科学領域

有機薬化学研究室.....	52
医薬分子化学研究室.....	54
生薬科学研究室.....	57

分子構造化学研究室	59
-----------------	----

薬学教育領域

薬学教育推進センター	61
------------------	----

総合薬学研究センター

総合薬学研究センター	62
------------------	----

総合科学系領域

言語文化学グループ	65
自然学グループ	67
人間文化学グループ	69
環境医療学グループ	70

病態分子薬理学研究室

学術論文

Tawa M, Abe S, Fujita A, Ando R, Yoshinari H, Nakagawa K, Ohkita M. 2025 Jun. Beneficial effects of magnesium nitrate on disease severity in male rats with monocrotaline-induced pulmonary hypertension. *Physiol Rep* **13**(12):e70416. doi:10.14814/phy2.70416

Nakagawa K, Oshiba Y, Sukita R, Hosomi A, Tawa M, Ohkita M. 2025 Apr 8. Roxadustat has beneficial effects on the vascular tone of the rat thoracic aorta. *J Cardiovasc Pharmacol* **86**(1):60-68. doi:10.1097/FJC.0000000000001697

Tawa M, Nakagawa K, Ohkita M. 2026 Jan 20. Vasoprotection by Dietary Nitrate in Rats with Vitamin D3-Induced Vascular Calcification. *J Vasc Dis* **5**(1):3. doi:10.3390/jvd5010003

総説

Tawa M, Nakagawa K, Ohkita M. 2025 Jan 20. Soluble guanylate cyclase stimulators and activators as potential antihypertensive drugs. *Hypertens Res* **48**:1458-1470. doi:10.1038/s41440-025-02110-5

学会発表

田和 正志, 阿部 俊人, 藤田 亜湖, 安藤 吏駆, 吉成 一, 中川 恵輔, 大喜多 守. モノクロタリン誘発肺高血圧症ラットに対する硝酸マグネシウムの効果. 第 147 回 日本薬理学会近畿部会, 2025 年 6 月 (名古屋) .

中川 恵輔, 田中 亮輔, 堂内 政秀, 神田 将哉, 鎌田 沙彩, 小淵 修平, 田和 正志, 松村 靖夫, 大喜多 守. 虚血性急性腎障害に伴う血管内皮機能低下におけるインドキシル硫酸の関与. 第 8 回 日本 Uremic toxin 研究会学術集会, 2025 年 5 月 (東京) .

田和 正志, 中川 恵輔, 大喜多 守. 硝酸ナトリウムによる血管石灰化の抑制効果. 第 99 回 日本薬理学会年会, 2026 年 3 月 (仙台) .

田和 正志, 阿部 俊人, 藤田 亜湖, 吉成 一, 安藤 吏駆, 中川 恵輔, 大喜多 守. モノクロ
タリン誘発肺高血圧症ラットにおける硝酸マグネシウムの治療効果. 日本薬学会第 146 年
会, 2026 年 3 月 (大阪) .

薬品作用解析学研究室

学術論文

Ishizaki Y, Shimizu S, Kusaka A, Yoshida A, Kunisawa N, Ohno Y. 2025 Oct. Ameliorative effects of Kir41 channel inhibitors on lipopolysaccharide-induced cognitive impairment via BDNF/TrkB signaling pathway. *J Pharmacol Sci* **159**(2):64-73.
doi:10.1016/j.jphs.2025.07.002

Numakura Y, Tanaka M, Izawa T, Yamate J, Kuramoto T, Serikawa T, Kunisawa N, Shimizu S, Ohno Y, Kuwamura M. 2026 Jul 1. Contrasting effects of PHD finger protein 24 (PHF24) on brain morphology of the spontaneous generalized tonic-clonic seizure model; Noda epileptic rat (NER) and Phf24-null rat. *Exp Anim* **75**(3):296-305. doi:10.1538/expanim.25-0125

学会発表

石崎 悠斗, 田中 愛結, 田川 未和, 東浦 真子, 清水 佐紀, 大野 行弘. Kir4.1 チャンネル阻害薬 VU0134992 の BDNF/TrkB 経路を介した認知障害改善作用. 生体機能と創薬シンポジウム 2025 仙台, 2025 年 8 月 (仙台) .

吉田 茜, 石崎 悠斗, 日下 綾菜, 大野 行弘, 清水 佐紀. Lipopolysaccharide 誘発うつ病モデルマウスを用いた Kir4.1 チャンネル阻害薬の作用評価. 生体機能と創薬シンポジウム 2025 仙台, 2025 年 8 月 (仙台) .

田原 脩吾, 國澤 直史, 田中 杏奈, 浅田 実乃理, 小倉 芽依, 清水 佐紀, 大野 行弘. ペンチレンテトラゾールキンドリングの獲得に伴う認知機能障害に対するレベチラセタムの影響. 生体機能と創薬シンポジウム 2025 仙台, 2025 年 8 月 (仙台) .

石崎 悠斗, 田中 愛結, 田川 未和, 東浦 真子, 清水 佐紀, 大野 行弘. 神経炎症性の認知機能障害に対する BDNF/TrkB 経路を介した Kir4.1 チャンネル阻害薬の改善作用. 第 148 回日本薬理学会近畿部会, 2025 年 11 月 (大阪) .

吉田 茜, 石崎 悠斗, 日下 綾菜, 大野 行弘, 清水 佐紀. Lipopolysaccharide 誘発うつ病モデルを用いたアストロサイト Kir4.1 チャンネル阻害薬の作用評価. 第 148 回日本薬理学会近畿部会, 2025 年 11 月 (大阪) .

田原 脩吾, 國澤 直史, 田中 杏奈, 浅田 実乃理, 小倉 芽依, 清水 佐紀, 大野 行弘. ペンチレンテトラゾール反復投与によるキンドリング形成および認知機能障害に対するレベチラセタムの作用. 第 148 回 日本薬理学会近畿部会, 2025 年 11 月 (大阪) .

Kunisawa N, Shimizu S, Ikeda A, Ohno Y. Effects of fluorocitrate, a specific astrocyte inactivator, on expression of astrocytic Kir4.1 channels and pentylenetetrazole (PTZ)-induced seizure susceptibility. 第 58 回 日本てんかん学会学術集会, 2025 年 10 月 (栃木) .

大野 行弘, 芹川 忠夫, 笹 征史, 池田 昭夫, 國澤 直史, 清水 佐紀. 疾患モデル動物を用いたてんかん病態の解析. 第 58 回 日本てんかん学会学術集会, 2025 年 10 月 (栃木) .

清水 佐紀, 吉田 茜, 石崎 悠斗, 大野 行弘. 選択的 Kir4.1 チャネル阻害薬 Lys05 による lipopolysaccharide 誘発うつ病様行動の改善効果. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

薬物治療学 | 研究室

学術論文

Yamada T, Tanaka S, Noda T, Urashima K, Fujimoto A, Kohda Y, Kato R. 2025 Feb. Disproportionality analysis of flutamide- or bicalutamide-induced liver injury with and without steroids by using the Japanese Adverse Drug Event Report database. *Int J Clin Pharm* **47**(1):128-135. doi:10.1007/s11096-024-01814-x

Noda T, Tanaka S, Maruta Y, Haruna M, Mizuguchi S, Fujimoto A, Urashima K, Kohda Y, Kato R. 2025 May. Brigatinib activates inflammasomes: Implication for immune-related adverse events. *Toxicol Appl Pharmacol* **498**:117310. doi:10.1016/j.taap.2025.117310.

Mizuguchi S, Tanaka S, Aoki R, Noda T, Urashima K, Fujimoto A, Takaori-Tamura M, Kidani A, Suzuki J, Kohda Y, Kato R. 2026 Mar 15. Mechanism of vildagliptin-induced liver injury: an idiosyncratic drug reaction mediated by inflammasome activation. *Metallomics* **173**:116301. doi:10.1016/j.intimp.2026.116301

総説

Kato R. 2025 Jul. Reactive metabolites cause idiosyncratic drug-induced liver injury via inflammasome activation in antigen-presenting cells. *J Appl Toxicol* **45**(7):1223-1229. doi:10.1002/jat.4751

加藤 隆児. 2026. 薬物性肝障害の最新知見と課題 インフラマソーム活性化と特異体質性薬物性肝障害 基礎とリアルワールドデータの融合研究 . *Yakugaku Zasshi* **146**(2):111-114.

著書

Ⅲ章疾患と薬物治療. 消化器系疾患. 30 胆管炎・胆嚢炎, 「薬物治療学 改訂 15 版」, 吉尾 隆 他編, 南山堂 (東京).

Ⅲ章疾患と薬物治療. 皮膚疾患. 99 褥瘡, 「薬物治療学 改訂 15 版」, 吉尾 隆 他編, 南山堂 (東京).

解説・プロシーディング・紀要・その他

田中 早織, 幸田 祐佳, 加藤 隆児. 2025. エンレスト粒状錠小児用 12.5mg, 31.25mg アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬 (ARNI). *調剤と情報* **31(5)**:846-849.

田中 早織, 幸田 祐佳, 加藤 隆児. 2025 Jul 15. ルプキネスカプセル 7.9mg 免疫抑制薬/カルシニューリン阻害薬 . *調剤と情報* **31(8)**:1588-1597.

学会発表

Noda T, Tanaka S, Mizuguchi S, Fujimoto A, Urashima K, Kohda Y, Kato R. Exploring Involvement of the Immune System and Biomarkers in Brigatinib-Induced Liver Injury. 23rd International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 2025 年 9 月(Singapore).

Otsubo C, Noda T, Urashima K, Fujimoto A, Mizuguchi S, Tanaka S, Kohda Y, Kato R. Elucidation of the mechanism of lorlatinib-induced liver injury. 23rd International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 2025 年 9 月(Singapore).

Sakai Y, Noda T, Urashima K, Fujimoto A, Mizuguchi S, Tanaka S, Kohda Y, Kato R. Afatinib activates inflammasome leading to afatinib-induced nephrotoxicity. 23rd International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 2025 年 9 月(Singapore).

Tanaka S, Noda T, Urashima K, Fujimoto A, Mizuguchi S, Kohda Y, Kato R. Trovafloxacin activates inflammasome leading to trovafloxacin induced immune related liver injury. 23rd International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 2025 年 9 月(Singapore).

Kato R. Digital Transformation for TDM and Clinical Toxicology Research. 23rd International Congress of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, 2025 年 9 月(Singapore).

浦嶋 和也, 植田 徹, 小山 貴士, 渡部 雄二, 大井 隆広, 木村 仁, 土井 敏行, 北澤 文章, 加藤 隆児. ARNI、利尿薬、NSAIDs および PPI 併用が腎機能低下に及ぼす影響～多施設共同後方視的調査による検討～. 第 19 回 日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会, 2025 年 11 月 (東京) .

加藤 隆児. 心腎連関とマルチモビディティ. 第 19 回 日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会, 2025 年 11 月 (東京) .

鈴木 慈奈, 野田 拓誠, 浦嶋 和也, 水口 芹奈, 藤本 亜弓, 木谷 文香, 田村 真由子, 田中 早織, 幸田 祐佳, 加藤 隆児. クロザピン誘発特異体質性副反応発症機序の解明と早期発症バイオマーカーの検討. 第 41 回 日本 TDM 学会・学術大会, 2025 年 7 月 (大阪) .

加藤 隆児. JSTDM-IATDMCT YS Joint Symposium 2025-Antimicrobial Optimization with TDM: for patients' future-. 第 41 回 日本 TDM 学会・学術大会, 2025 年 7 月 (大阪) .

小池 悠作, 見立 知優, 阪本 英二, 田中 早織, 幸田 祐佳, 井尻 好雄, 林 哲也, 加藤 隆児. Ca^{2+} 過負荷に対する β クリスタリンの役割と心不全の進展に及ぼす影響. 第 46 回 日本循環制御医学会総会・学術集会, 2025 年 6 月 (北海道) .

加藤 隆児. 薬物性肝障害研究のフロンティアー発症機序の解明とその予測予防に向けてー. 第 46 回 日本臨床薬理学会学術総会, 2025 年 12 月 (東京) .

田中 早織. 反応性代謝物によるインフラマソーム活性化と特異体質性薬物性肝障害—vitro および vivo の研究より—. 第 46 回 日本臨床薬理学会学術総会, 2025 年 12 月 (東京) .

Mizuguchi S, Noda T, Urashima K, Fujimoto A, Tanaka S, Kohda Y, Kato R. Elucidation of mechanism for vildagliptin-induced liver injury: Evaluation of inflammasome activation by covalent binding. 第 52 回 日本毒性学会学術年会, 2025 年 7 月 (沖縄) .

Takagaki H, Noda T, Urashima K, Fujimoto A, Mizuguchi S, Tanaka S, Kohda Y, Kato R. Investigation of the mechanism of lorlatinib-induced liver injury. 第 52 回 日本毒性学会学術年会, 2025 年 7 月 (沖縄) .

Tanaka S, Noda T, Urashima K, Fujimoto A, Mizuguchi S, Kohda Y, Kato R. Study of the mechanism of bicalutamide induced liver injury and reduction of toxicity by separation of optical isomers. 第 52 回 日本毒性学会学術年会, 2025 年 7 月 (沖縄) .

藤本 亜弓, 長谷川 葵, 浦嶋 和也, 野田 拓誠, 田村 真由子, 水口 芹奈, 木谷 文香, 鈴木 慈奈, 田中 早織, 幸田 祐佳, 加藤 隆児. EGFR-TKI による心毒性発現機序の解明— JADER を用いた解析と基礎的検討—. 第 8 回 日本腫瘍循環器学会学術集会, 2025 年 10 月 (大阪) .

幸田 祐佳, 松村 人志, 福石 信之, 田中 早織, 加藤 隆児. 肥満を伴う糖尿病ラットの肝臓 GIP 発現は高用量チアミン摂取により修飾される. 第 99 回 日本薬理学会年会, 2026 年 3 月 (仙台) .

加藤 隆児. 特異体質性薬物性肝障害研究のフロンティア—特異体質性薬物性肝障害の予測は可能か?—. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

田中 早織. 損傷関連分子パターン (DAMPs) は特異体質性薬物性肝障害の予測マーカーに成り得るのか? 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

伴 涼太郎, 山中 水月, 柿木 基治, 井上 和子, 小森 高文, 田中 早織, 加藤 隆児. 反応性代謝物を介した薬剤性肝障害の分子リスク評価に向けた網羅的プロテオーム解析. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

水口 芹奈, 田中 早織, 青木 怜, 野田 拓誠, 浦嶋 和也, 藤本 亜弓, 高折 真由子, 木谷 文香, 鈴木 慈奈, 幸田 祐佳, 加藤 隆児. ビルダグリプチンによるインフラマソーム活性化を介した肝障害の発症と免疫寛容損傷の影響. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

木谷 文香, 野田 拓誠, 浦嶋 和也, 水口 芹奈, 藤本 亜弓, 鈴木 慈奈, 高折 真由子, 田中 早織, 幸田 祐佳, 加藤 隆児. BCR-ABL チロシンキナーゼ阻害剤誘発肝障害発症機序の解明—反応性代謝物によるインフラマソーム活性化の検討—. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

高折 真由子, 橋本 知樹, 伊藤 博美, 黒岩 勇人, 上田 綾佳, 加藤 隆児, 幸田 祐佳, 田中 早織, 眞継 賢一. 内服困難となった急性骨髄性白血病患者にベネトクラクスを簡易懸濁で経管投与した一例. 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2026, 2026 年 3 月 (福岡) .

薬物治療学Ⅱ研究室

学術論文

Maruyama R, Fukumori A, Funamoto S, Okada K, Akamine S, Yanagida K, Shinohara M, Sato N, Okochi M, Kudo T, Steiner H. 2026 Feb 5. γ -Secretase exosites as targets for substrate-selective lowering of A β generation. *Structure* **34(2)**:363-374.e4. doi:10.1016/j.str.2025.11.010

Breimann S, Kamp F, Basset G, Abou-Ajram C, Güner G, Yanagida K, Okochi M, Müller SA, Lichtenthaler SF, Langosch D, Frishman D, Steiner H. 2025 Jul 1. Charting γ -secretase substrates by explainable AI. *Nat Commun* **16(1)**:5428. doi:10.1038/s41467-025-60638-z

学会発表

Fukumori A, Ishihara C, Okada K, Yamaguchi T, Yanagida K, Shimizu M, Sakaguchi M, Matsunaga H. The target epitope of an antibody in the cerebrospinal fluid in anti-AMPA receptor encephalitis. 第 66 回 日本神経学会学術大会, 2025 年 5 月 (大阪) .

Kanamune J, Shimizu M, Okada K, Yanagida K, Yamaguchi T, Matsunaga H, Sakaguchi M, Fukumori A. Cerebrospinal Fluid Antibodies Reacting to Brainstem Regions in Two CLIPPERS Syndrome Patients. 第 66 回 日本神経学会学術大会, 2025 年 5 月 (大阪) .

金宗 潤, 清水 幹人, 岡田 健, 柳田 寛太, 山口 敬子, 松永 秀典, 坂口 学, 福森 亮雄. CLIPPERS CSF マウス脳組織アッセイ：運動制御神経への関与の可能性. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

高部 大輝, 浦谷 桃果, 越智 翔太, 井上 駿, 福永 幸祐, 徳山 聖祐, 山口 奈央, 山口 敬子, 金宗 潤, 柳田 寛太, 福森 亮雄. Neuroligin-3 の段階的切断機構と ASD 関連変異の影響. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

高井 萌, 徳山 聖祐, 福永 幸祐, 山口 奈央, 山口 敬子, 柳田 寛太, 平田 佳之, 上里 新一, 福森 亮雄. 食品由来成分による A β 産生調節：AD 予防への応用可能性. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

井上 駿, 越智 翔太, 高部 大輝, 徳山 聖祐, 福永 幸祐, 山口 奈央, 金宗 潤, 山口 敬子, 柳田 寛太, 福森 亮雄. CADM3 の代謝メカニズムの解析とその細胞膜内外でのプロセッシング. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

多田 真弓, 福永 幸祐, 徳山 聖祐, 寺井 つくし, 山口 奈央, 山口 敬子, 金宗 潤, 柳田 寛太, 福森 亮雄. ランビエの絞輪に関連する分子である neurofascin の切断. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

小竹 亜美, 平田 佳之, 福永 幸祐, 徳山 聖祐, 山口 奈央, 山口 敬子, 金宗 潤, 柳田 寛太, 上里 新一, 福森 亮雄. 免疫チェックポイント分子 PD-L1 のプロテアーゼ分解経路の解析. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

越智 翔太, 徳山 聖祐, 福永 幸祐, 金宗 潤, 山口 奈央, 山口 敬子, 柳田 寛太, 安田 大輔, 平野 智也, 福森 亮雄. リコンビナント全長 α シヌクレインを用いた凝集評価系構築の試み. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

前田 初代, 福森 亮雄, 恩田 光子. 認知行動療法に基づく薬剤師のための認知症家族介護者支援プログラム (START-PharmD) の開発. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

阿波 友望, 金宗 潤, 柳田 寛太, 山口 敬子, 加藤 隆児, 山口 奈央, 松永 秀典, 木村 亮, 福森 亮雄. トウレット症候群および PANDAS 患者血清中の抗 DRD2 抗体の結合解析. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

春名 彩圭, 徳山 聖祐, 福永 幸祐, 山口 奈央, 中尾 和都, 山口 敬子, 金宗 潤, 柳田 寛太, 福森 亮雄. 神経接着分子 L1CAM の段階的プロセッシング機構の解析. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

徳山 聖祐, 金宗 潤, 岡田 健, 山口 奈央, 柳田 寛太, 山口 敬子, 松永 秀典, 加藤 隆児, 清水 幹人, 坂口 学, 福森 亮雄. γ -セクレターゼ依存的な LRRC4B の切断により、シナプス機能に関与する可能性のある細胞内ドメインが産生される +CC20:D23+CC22:D23. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

廣田 航之介, 徳山 聖祐, 福永 幸祐, 山口 奈央, 山口 敬子, 金宗 潤, 柳田 寛太, 福森 亮雄. TrkB 受容体のシェディングおよび膜内切断機構の解析. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

吉田 奈央, 濱口 夢乃, 西田 沙妃, 中嶋 美奈, 金宗 潤, 山口 敬子, 山口 奈央, 柳田 寛太, 福森 亮雄, 田中 稔久. フォトクロスリンク法により作成されたタウ蛋白分子 2 量体によるタウ重合促進過程の検討. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

真木 芙美香, 柿原 光希, 高嶋 結衣, 高木 陽子, 福永 幸祐, 徳山 聖祐, 山口 奈央, 金宗 潤, 山口 敬子, 柳田 寛太, 福森 亮雄. 受容体型チロシンキナーゼ Tyro3 から放出される新規小ペプチド断片の検出. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

福永 幸祐, 徳山 聖祐, 山口 奈央, 山口 敬子, 金宗 潤, 柳田 寛太, 福森 亮雄. 神経回路形成に関わる Ephrin-B3 の膜内切断における小ペプチド産生と切断部位の同定. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

井上 晴大, 高部 大輝, 福永 幸祐, 徳山 聖祐, 水田 梨穂, 山口 敬子, 山口 奈央, 柳田 寛太, 福森 亮雄. シナプス接着分子 Neuroligin 1 の切断と細胞内断片の多様性. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

濱口 夢乃, 上里 新一, 平田 佳之, 赤松 百華, 西田 沙妃, 吉田 奈央, 中嶋 美奈, 徳山 聖祐, 福永 幸祐, 金宗 潤, 山口 敬子, 柳田 寛太, 田中 稔久, 福森 亮雄. Tau タンパク質と EGCG の相互作用に関する構造・生化学的解析. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

杉本 陽菜, 高木 陽子, 超智 翔太, 長谷 萌花, 徳山 聖祐, 福永 幸祐, 山口 奈央, 山口 敬子, 金宗 潤, 柳田 寛太, 福森 亮雄. 受容体型チロシンキナーゼ Axl から放出される新規小ペプチド断片の検出. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

高畑 侑観, 福永 幸祐, 徳山 聖祐, 山口 奈央, 山口 敬子, 金宗 潤, 柳田 寛太, 福森 亮雄. APP ファミリータンパク質 APLP2 の膜近傍における切断. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

河野 悠朔, 田中 那奈, 金宗 潤, 梅澤 咲来, 岡田 健, 石原 千華, 北岡 京花, 山口 奈央, 加藤 隆児, 加藤 巧馬, 山口 敬子, 河合 昭好, 柳田 寛太, 松永 秀典, 黒澤 信幸, 福森 亮雄. 抗 NMDAR 抗体曝露直後に生じる NMDAR の一過性の反応. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

病態生化学研究室

学術論文

Nakanishi K, Ishida M, Taniguchi K, Hosomi K, Arima J, Tomioka A, Asakuma M, Miyamoto Y, Fujimori K, Hirose Y, Lee SW. 2025 Aug 8. Immunohistochemical Demonstration of Tuft Cells in Human Acinar-to-Ductal Metaplasia and Pancreatic Intraepithelial Neoplasia. *Biomedicines* **13(8)**:1944. doi:10.3390/biomedicines13081944

Hosomi K, Sato A, Ishida M, Nakanishi K, Terada T, Haginomori SI, Hirose Y, Fujimori K. 2025 Oct. Differential expression of haematopoietic prostaglandin D synthase by POU2F3-positive tuft cells in conventional bilayered oncocytic and metaplastic epithelia of Warthin tumours. *Mol Med Rep* **32(4)**:259. doi:10.3892/mmr.2025.13624

Iguchi Y, Yamashita Y, Gohda K, Fujimori K, Sera Y, Imanaka T, Yamaguchi M, Une M, Teno N. 2025. FLG249 Exhibits FXR Antagonist Activity by Inducing Dissociation of Both Corepressors and Coactivators from FXR. *Biol Pharm Bull* **48(7)**:1016-1021. doi:10.1248/bpb.b25-00095

Fujimori K, Iguchi Y, Yamashita Y, Gohda K, Teno N. 2024 Dec 27. FXR activation accelerates early phase of osteoblast differentiation through COX-2-PGE2-EP4 axis in BMP-2-induced mouse mesenchymal stem cells. *Molecules* **30(1)**:58. doi:10.3390/molecules30010058

Teno N, Fujimori K, Iguchi Y, Yamashita Y, Gohda K. 2025. Structure-Activity Relationship of FLG249, Farnesoid X Receptor (FXR) Antagonist. *HIU Journal of Health & Science, Hiroshima International University* **4**:63-71. doi:なし

Itakura M, Kubo T, Kaneshige A, Nakatsuji M, Harada N, Yamaji R, Hikida T, Inui T, Nakajima H. 2025 Jun 20. Inhibition of GAPDH aggregation as a potential treatment for acute ischemic stroke. *iScience* **28(6)**:112564. doi:10.1016/j.isci.2025.112564

Furuta K, Nakatsuji M, Yoshida H, Okubo R, Nishide K, Yamamura T, Inui T. 2026 Jan 20. Drug Delivery System for the Anticancer Drug Paclitaxel Using Lipocalin-Type Prostaglandin D Synthase Conjugated to a Tumor-Targeting Peptide. *ACS Omega* **11(2)**:3004-3013. doi:10.1021/acsomega.5c09324

学会発表

Hosomi K, Maehara T, Nakatsuji M, Onishi Y, Kawabata S, Hirose Y, Fujimori K.
Hematopoietic prostaglandin D synthase-produced prostaglandin D2 alleviates caerulein-induced acute pancreatitis. Lipid Research 2025 SULiC Symposium/19th SphingoTherapy Conference, 2025 年 11 月 (大阪) .

Nakatsuji M, Fujimori K. Adipocytes induce tamoxifen and palbociclib resistance by activating PI3K/Akt/mTOR in ER-positive breast cancer cells. Lipid Research 2025 SULiC Symposium/19th SphingoTherapy Conference, 2025 年 11 月 (大阪) .

Nakatsuji M, Fujimori K. Adipocytes promote tamoxifen resistance by activating PI3K/Akt/mTOR pathway in ER-positive breast cancer cells. The 3rd JCA-AACR Precision Cancer Medicine International Conference 2025 年 6 月 (京都) .

細見 健太, 中辻 匡俊, 大西 悠介, 川畑 茂, 廣瀬 善信, 藤森 功. H-PGDS 由来プロスタグランジン D2 はセルレイン誘発性急性膵炎を抑制する. フォーラム 2025 : 衛生薬学・環境トキシコロジー, 2025 年 9 月 (名古屋) .

野山 晶菜, 中辻 匡俊, 藤森 功. G タンパク質共役エストロゲン受容体の活性化によるトリプルネガティブ乳癌細胞のアポトーシス誘導. フォーラム 2025 : 衛生薬学・環境トキシコロジー, 2025 年 9 月 (名古屋) .

中辻 匡俊, 前原 都有子, 小池 敦資, 細見 健太, 藤森 功. システイニルロイコトリエン受容体 1 アゴニストである pranlukast による食事誘発性肥満の抑制. フォーラム 2025 : 衛生薬学・環境トキシコロジー, 2025 年 9 月 (名古屋) .

小池 敦資, 中辻 匡俊, 庄野 陸太, 清原 祐子, 藤森 功. 植物性乳酸菌による抗肥満効果の検証. フォーラム 2025 : 衛生薬学・環境トキシコロジー, 2025 年 9 月 (名古屋) .

細見 健太, 中辻 匡俊, 大西 悠介, 川畑 茂, 廣瀬 善信, 藤森 功. 急性膵炎における造血器型 PGD 合成酵素による炎症調節機構の解析. 第 24 回 次世代を担う若手のためのフォーラム・バイオフィォーラム 2025, 2025 年 8 月 (東京) .

小池 敦資, 藤森 功. ブレオマイシン肺線維症モデルを用いた骨格筋萎縮機構の解析. 第 48 回 日本分子生物学会年会, 2025 年 12 月 (横浜) .

細見 健太, 中辻 匡俊, 大西 悠介, 川畑 茂, 廣瀬 善信, 藤森 功. セルレイン誘発性急性膵炎における H-P GDS による炎症調節. 第 67 回 日本脂質生化学会, 2025 年 6 月 (東京) .

小池 敦資, 藤森 功. ブレオマイシン誘導肺線維症における骨格筋萎縮機構の解析. 第 71 回 日本生化学会近畿支部例会, 2025 年 5 月 (和歌山) .

中辻 匡俊, 藤森 功. 脂肪細胞による PI3K/Akt/mTOR 経路の活性化を介した ER 陽性乳癌細胞の癌幹細胞形質と Tamoxifen 耐性の誘導. 第 71 回 日本生化学会近畿支部例会, 2025 年 5 月 (和歌山) .

細見 健太, 中辻 匡俊, 大西 悠介, 川畑 茂, 廣瀬 善信, 藤森 功. 急性膵炎の炎症制御における H-PGDS 造血器型プロスタグランジン D 合成酵素の炎症制御機能解析. 第 71 回 日本生化学会近畿支部例会, 2025 年 5 月 (和歌山) .

細見 健太, 中辻 匡俊, 大西 悠介, 川畑 茂, 廣瀬 善信, 藤森 功. プロスタグランジン D2 による急性膵炎の炎症調節機構の解明. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

中辻 匡俊, 野山 晶菜, 藤森 功. 乳癌細胞における G タンパク質共役エストロゲン受容体の機能解析. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

中辻 匡俊, 藤森 功. 脂肪細胞による PI3K/Akt/mTOR 経路の活性化を介した ER 陽性乳癌細胞の癌幹細胞形質と Tamoxifen 耐性の誘導. 第 84 回 日本癌学会学術総会, 2025 年 9 月 (石川) .

細見 健太, 中辻 匡俊, 大西 悠介, 川畑 茂, 廣瀬 善信, 藤森 功. セルレイン誘発性急性膵炎におけるプロスタグランジン D2 の機能解析. 第 98 回 日本生化学会大会, 2025 年 11 月 (京都) .

小池 敦資, 伊藤 愛夏, 藤森 功. ブレオマイシン誘導肺線維症モデルを用いた骨格筋萎縮と肺線維化の相互作用機構の解析. 第 98 回 日本生化学会大会, 2025 年 11 月 (京都) .

中辻 匡俊, 野山 晶菜, 藤森 功. G タンパク質共役エストロゲン受容体の活性化による AMPK 経路を介したトリプルネガティブ乳癌細胞のアポトーシス誘導. 第 98 回 日本生化学会大会, 2025 年 11 月 (京都) .

小池 敦資, 中辻 匡俊, 庄野 陸太, 藤森 功. 植物性乳酸菌による抗肥満効果の解析. 日本農芸化学会 2026 年度大会, 2026 年 3 月 (京都) .

細見 健太, 中辻 匡俊, 大西 悠介, 川畑 茂, 廣瀬 善信, 藤森 功. 急性膵炎の進展制御における造血器型 PGD 合成酵素の機能解明. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

中辻 匡俊, 藤森 功. 脂肪細胞によるエストロゲン受容体陽性乳癌細胞のパルボシクリブ耐性の獲得. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

高見 萌愛, 小池 敦資, 藤森 功. ヒト乳がん細胞株由来の培養上清による破骨細胞分化促進機構の解析. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

高津 美咲, 小池 敦資, 藤森 功. 骨格筋萎縮が肺線維化に及ぼす影響について. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

小池 敦資, 藤森 功. ブレオマイシン誘導肺線維症における骨格筋萎縮機構の解析. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

井口 裕介, 山下 ユキコ, 合田 圭吾, 藤森 功, 手納 直規. 新規 FXR アンタゴニスト FLG249 の FXR と転写コレギュレーターとの相互作用に対する影響. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

中辻 匡俊, 藤森 功. 成熟脂肪細胞がもたらす ER 陽性乳癌細胞の薬剤耐性. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

迫留 駿介, 堀口 健也, 藤森 功. All-trans レチノイン酸はトリグリセリド合成を阻害し脂肪蓄積を抑制する. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

筒井 麻衣, 中辻 匡俊, 藤森 功. エストロンによる過酸化水素誘導神経細胞死の抑制. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

青山 瑞波, 中辻 匡俊, 藤森 功. タモキシフェンによるトリプルネガティブ乳癌細胞の細胞体ストレス応答の抑制. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

榛葉 繁紀, 藤森 功. 脂肪細胞研究のパラダイムシフト ー次なる Decade に向けてー. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

生体分析学研究室

学術論文

Kondo N, Hirano F, Kanai Y, Suzuki K, Miyazaki A, Temma T. 2026 Mar. A LAT1-selective PET tracer, 5- ^{18}F - α Me-3BPA, as a companion to its structurally matched ^{10}B analog in boron neutron capture therapy. *Eur J Nucl Med Mol Imaging* **53(4)**:2566-2577.

doi:10.1007/s00259-025-07668-3

Takada S, Du H, Kondo N, Miyazaki A, Hara F, Horiyama S. Temma T, Hagimori M. . A Long-Wavelength Fluorescent Probe for Efficient Dual-Color Imaging of Boronic-Acid-Containing Agents in Living Cells. *Chemosensors* **13(8)**:283.

doi:10.3390/chemosensors13080283

Futatsugi M, Miyazaki A, Kanai Y, Kondo N, Temma T. 2025 Apr 20. Fluorine-18-Labeled Positron Emission Tomography Probe Targeting Activated p38 α : Design, Synthesis, and In Vivo Evaluation in Rodents. *Pharmaceuticals (Basel)* **18(4)**:600. doi:10.3390/ph18040600

Kondo N, Kato M, Oshima A, Hirano F, Miyazaki A, Temma T. 2025 Apr 8. Radioiodinated Bicyclic RGD Peptide Derivatives for Enhanced Tumor Accumulation. *Pharmaceuticals (Basel)* **18(4)**:549. doi:10.3390/ph18040549

著書

「クエスチョン・バンク薬剤師国家試験問題解説 2026」, 医療情報科学研究所 編, メディックメディア (東京) .

学会発表

Kotani A. Electrochemical sensing of acid and base compounds and its application to pharmaceutical and biomedical analysis. The 35th International Symposium on Pharmaceutical and Biomedical Analysis (PBA 2025), 2025 年 7 月 (Shanghai).

Yamamoto K, Nishihara K, Fukushima Y, Machida K, Kotani A, Hakamata H. Supercritical Fluid Chromatography for Separation of 9-Anthryldiazomethane Derivatized Very-long Chain Fatty Acids. The 35th International Symposium on Pharmaceutical and Biomedical Analysis (PBA 2025), 2025 年 7 月 (Shanghai).

Machida K, Sugawara H, Uehara H, Azami T, Koseki Y, Kotani A, Yamamoto K, Hakamata H. Analysis of Electro oxidation Reaction of Cholesterol Using Carbon Fiber Electrode. The 35th International Symposium on Pharmaceutical and Biomedical Analysis (PBA 2025), 2025 年 7 月 (Shanghai).

二木 未来哉, 宮崎 杏奈, 金井 泰和, 近藤 直哉, 天満 敬. 活性化 p38 α を標的とした PET 用 18F 標識プローブの評価. 第 19 回 日本分子イメージング学会総会・学術集会, 2025 年 5 月 (福井) .

近藤 直哉, 小野田 佑保, 平野 楓子, 宮崎 杏奈, 花岡 宏史, 天満 敬. 可逆的共有結合性分子を導入した PSMA 標的 SPECT 用イメージングプローブの開発. 第 19 回 日本分子イメージング学会総会・学術集会, 2025 年 5 月 (福井) .

木下 飛路登, 山本 法央, 福嶋 由樹, 町田 晃一, 小谷 明, 袴田 秀樹. LC-MS によるベンゾイン誘導体化ラニナミビルオクタン酸エステルの定量. 第 32 回 クロマトグラフィーシンポジウム, 2025 年 5 月 (長崎) .

小谷 明, 川窪 美彩紀, 町田 晃一, 山本 法央, 三宅 克典, 袴田 秀樹. 桑の葉由来のビタミン K1 定量のための電気化学検出 HPLC の開発. 第 37 回 バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS2025) , 2025 年 8 月 (東京) .

町田 晃一, 菅原 啓資, 上原 英恵, 浅見 達彦, 小谷 明, 山本 法央, 袴田 秀樹. フロー型カラム電極電解法によるコレステロールの電極酸化と反応経路の解析. 第 37 回 バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS2025) , 2025 年 8 月 (東京) .

西原 光晟, 山本 法央, 福嶋 由樹, 町田 晃一, 小谷 明, 袴田 秀樹. UV 検出超臨界流体クロマトグラフィーによる 9-anthryldiazomethane 誘導体化極長鎖脂肪酸の高速分離. 第 37 回 バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS2025) , 2025 年 8 月 (東京) .

福嶋 由樹, 山本 法央, 町田 晃一, 小谷 明, 袴田 秀樹. 食品及び血漿中の遊離脂肪酸定量のためのシングル四重極質量分析計を検出器とした LC-MS 法の開発. 第 37 回 バイオメディカル分析科学シンポジウム (BMAS2025), 2025 年 8 月 (東京) .

小谷 明, 八木 祐助, 常風 興平, 浜田 幸宏, 袴田 秀樹. 血中ポサコナゾールの電気化学検出 HPLC の開発. 第 69 回 日本医真菌学会総会・学術集会, 2025 年 10 月 (高知) .

小谷 明, 福井 美優, 町田 晃一, 山本 法央, 袴田 秀樹. トコフェロールのボルタンメトリーによる 塩基定量のためのハイドロゲル電極 の開発. 第 71 回 ポーラログラフィーおよび電気分析化学討論会, 2025 年 10 月 (宮崎) .

川窪 美彩紀, 小谷 明, 町田 晃一, 山本 法央, 袴田 秀樹. 塩酸酸性下での電解還元を利用した HPLC による緑色野菜中のビタミン K1 の定量. 第 85 回 分析化学討論会, 2025 年 5 月 (愛媛) .

別府 文, 町田 晃一, 山本 法央, 小谷 明, 袴田 秀樹. pH 感受性蛍光プローブによる LDL の標識と細胞取り込みのハイコンテンツイメージング ～LDL 受容体のリガンド特異性の検討～. 第 85 回 分析化学討論会, 2025 年 5 月 (愛媛) .

小谷 明. 酸と塩基の電気化学測定法の開発と食品分析への応用. 日本分析化学会近畿支部 第 2 回支部講演会, 2025 年 7 月 (大阪) .

國吉 慶士郎, 小谷 明, 八木 祐助, 常風 興平, 浜田 幸宏, 袴田 秀樹. イトラコナゾールの血中濃度測定のための電気化学検出 HPLC の開発. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

吉岡 優, 町田 晃一, 別府 文, 山本 法央, 小谷 明, 袴田 秀樹. HepG2 細胞における pH 感受性蛍光標識 LDL の細胞取り込みに対する遊離脂肪酸の影響. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

斯波 巳之春, 宮崎 杏奈, 袴田 秀樹, 小谷 明. ホウ素ドーブダイヤモンド電極を用いたモノテルペンとセスキテルペンの電気化学検出法の開発. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

岸本 淳希, 宮崎 杏奈, 町田 晃一, 袴田 秀樹, 小谷 明. 陽イオン交換容量測定のためのポルタンメトリーの開発. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

天満 敬, 入谷 早咲, 近藤 直哉, 平野 楓子, 鈴木 健介, 宮崎 杏奈. 5F- α Me-3BPA のホウ素中性子捕捉療法用薬剤としての有効性評価に関する基礎的検討. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

福嶋 由樹, 山本 法央, 町田 晃一, 小谷 明, 袴田 秀樹. シングル四重極質量分析計を検出器とした LC-MS を用いる食品および生体試料中に含まれる遊離脂肪酸の定量法の開発. 令和 7 年度 東日本分析化学若手交流会, 2025 年 7 月 (群馬) .

國吉 慶士郎, 小谷 明, 八木 祐助, 常風 興平, 浜田 幸宏, 袴田 秀樹. 電気化学検出 HPLC による血中イトラコナゾール定量法の開発 . 令和 7 年度 東日本分析化学若手交流会, 2025 年 7 月 (群馬) .

薬剤学研究室

学術論文

Kinoshita S, Motohashi H, Nishida K, Tarutani S, Kanazawa T, Nagai J. 2025 Sep. Influence of pharmacokinetics-related gene polymorphisms on plasma levels of clozapine and its metabolites in Japanese patients with schizophrenia. *PCN Rep* **4**(3):e70164. doi:10.1002/pcn5.70164

Saito M, Urakami-Takebayashi Y, Motohashi H, Nagai J. 2025 Oct 16. Clinical Impacts of Immunogenicity in Approved Antibody Drugs in Japan: A Quantitative Evaluation of Pharmacokinetics, Efficacy, and Safety Outcomes. *AAPS J* **28**(1):1. doi:10.1208/s12248-025-01165-z

学会発表

Nagai J, Koga A, Tsuda A, Urakami-Takebayashi Y, Ohno Y, Motohashi H. Effects of cyclooxygenase inhibitors on prostaglandin E2 transport in the HK-2 human kidney epithelial cell line. 83rd FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences, 2025 年 8 月 (Copenhagen).

Nagai J, Uekura Y, Haba H, Takebayashi Y, Motohashi H. Effect of the Hypoxia-Inducible Factor Prolyl Hydroxylase Inhibitor Roxadustat on Hypoxia-Inducible Factor Target Genes Expression in Human Kidney HK-2 Cells and Human Hepatocellular HepG2 Cells. The 12th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP) Conference 2025, 2025 年 8 月 (埼玉).

津田 朱里, 古閑 彩葉, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也. ヒト腎近位尿細管上皮細胞株 HK-2 における prostaglandin E2 輸送特性と SLCO2A1 の関与. 第 46 回 生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2025 年 11 月 (滋賀) .

本橋 秀之, 古川 理貴, 山崎 百合香, 竹林 裕美子, 永井 純也. ラットにおける血糖バイオマーカー 1,5-anhydroglucitol の血漿中濃度と尿中排泄に与える SGLT2 阻害薬の影響. 第 46 回 日本臨床薬理学会学術総会, 2025 年 12 月 (東京) .

高橋 一栄, 永井 純也. 薬剤師として成長していく私。今、やるべきことは・・・!? ～医療現場と大学の連携から、輝ける未来について考えよう～. 第 47 回 日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2026 年 2 月 (大阪) .

佐野 量子, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也. ラットを用いた OATP1B 基質薬物の排泄過程における相互作用解析 ～インドシアニングリーンとロキサデュスタットを用いて～. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

上倉 優斗, 羽場 帆乃香, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也. ヒト腎近位尿細管上皮細胞株 HK-2 における薬物トランスポーター発現に及ぼす HIF-PH 阻害薬ロキサデュスタットの影響. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

濱本 悠里香, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也. ヒト腎近位尿細管上皮細胞株 HK-2 におけるカルニチン輸送特性～OCTN2 の関与～. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

永井 純也, 高橋 一栄, 平野 智也. 薬学って、ええねん！ ～薬学出身者の多様なキャリアから薬学教育を考える～. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

佐野 量子, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也. ラットにおける HIF-PH 阻害薬ロキサデュスタット及び OATP1B 基質インドシアニングリーンの体内動態の比較解析. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

向井 愛佳, 本橋 秀之, 井尾 明日香, 竹林 裕美子, 永井 純也. ラットにおける SGLT2 阻害薬ダバグリフロジンの血漿中濃度と血糖バイオマーカー 1,5-anhydroglucitol 尿中排泄に与える影響. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

田尻 ひかる, 上倉 優斗, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也. ヒト腎近位尿細管上皮細胞株 HK-2 における ABC トランスポーターの mRNA 発現に及ぼす HIF-PH 阻害薬の影響. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

古川 理貴, 本橋 秀之, 山崎 百合香, 竹林 裕美子, 永井 純也. ラットにおける血糖バイオマーカー 1,5-anhydroglucitol 及びグルコースの血漿中濃度と尿中排泄に与える SGLT2 阻害薬ダバグリフロジンの影響. 日本薬剤学会 第 40 年会, 2025 年 5 月 (東京).

古閑 彩葉, 津田 朱里, 竹林 裕美子, 本橋 秀之, 永井 純也. ヒト腎近位尿細管上皮細胞株 HK-2 におけるプロスタグランジン E2 の輸送特性. 日本薬剤学会 第 40 年会, 2025 年 5 月 (東京).

製剤設計学研究室

学術論文

Ogasahara R, Mae M, Matsuura K, Yoshimura S, Ishimoto T, Udagawa T, Harada K, Fujioka H, Kamiya M, Asada R, Uchiyama H, Tozuka Y, Akai S, Sawama Y. 2025 Mar 6.

Photocatalytic Multiple Deuteration of Polyethylene Glycol Derivatives Using Deuterium Oxide. *Chemistry* **31(14)**:e202404204. doi:10.1002/chem.202404204

Ueda H, Tse JY, Nakayama Y, Mo P, Hatanaka Y, Uchiyama H, Tozuka Y, Kadota K. 2024 Dec 3. Formation of drug–drug salt crystals and co-amorphous forms of levofloxacin and 4-aminosalicylic acid for pulmonary applications. *RSC Pharm* **2(2)**:264-278.

doi:10.1039/d4pm00250d

Nakamura T, Manose H, Hatanaka Y, Uchiyama H, Tozuka Y, Kadota K. 2025 Apr 10. Eco-Friendly Dry Melt Coating of Tannic Acid Particles With Glycerol Monostearate and Amino Methacrylate Copolymer for Effective Taste Masking. *ACS Food Sci Technol* **5(5)**:1918-1929. doi:10.1021/acsfoodscitech.5c00102

Aulia SP, Nadia A, Annas D, Marlinda L, Madiabu MJ, Ndruru STCL, Marlina A, Khoiriah K, Sisca V, Adany F, Amin AK, Muttaqii MAI, Syauqi MI, Ditalistya T, Tozuka Y, Kadota K, Kämäräinen T, Nugroho RWN. 2025 Sep. Sustainable Green Synthesis of CoFe₂O₄/TiO₂ Magnetic Nanocomposites Using *Parkia speciosa* (Stinky Bean) Peel Extract as an Electrocatalyst for Hydrogen Production. *Vacuum* **239**:114378.

doi:10.1016/j.vacuum.2025.114378

Mo P, Hatanaka Y, Ohta S, Nakayama Y, Mawatari Y, Yamanaka S, Minoura K, Doi M, Uchiyama H, Kadota K, Tozuka Y. 2025 Jun 4. Development of Cocrystal and Coamorphous Salts of Moxifloxacin with Artificial Sweeteners to Suppress Bitterness. *Cryst Growth Des* **25(12)**:4283-4294. doi:10.1021/acs.cgd.5c00170

Nakayama Y, Kämäräinen T, Uchiyama H, Tozuka Y, Kadota K. 2025. Role of Amyloid Nanofibrils in Drug Incorporation and Release from Wrinkled Supraparticles. *ACS Appl Nano Mater* **8**:13438-13450. doi:10.1021/acsanm.5c02143

Haruna S, Shimoda E, Uchiyama H, Kadota K, Mimura H, Tozuka Y. 2025. Application of Isothermal Differential Scanning Calorimetry Equipped with a UV Probe for Photostability Assessment of Pharmaceutical Drugs in the Solid State. *Chem Pharm Bull* **73(8)**:745-751. doi:10.1248/cpb.c25-00323

Takegawa Y, Sugimoto M, Uchiyama H, Kadota K, Tozuka Y. 2025 Nov 30. Construction of a modified Arrhenius equation for predicting drug nitrosation in solid dosage form. *Int J Pharm* **685**:126212. doi:10.1016/j.ijpharm.2025.126212

Tanaka R, Nagatani M, Togashi R, Minoura K, Uchiyama H. 2025 Oct 7. Physically Stable Cyclodextrin Metal–Organic Frameworks Formed via a Drug-Assisted Amorphous to Crystal Phase Transition. *CryastEngComm* **27(44)**:7172-7127. doi:10.1039/D5CE00755K

総説

Kavya M, Krishnan R, Suvachan A, Sathyan S, Tozuka Y, Kadota K, Nisha P. 2025. The art and science of porous starch: Understanding the preparation method and structure–function relationship. *Crit Rev Food Sci Nutr* **65(15)**:2880-2897. doi:10.1080/10408398.2024.2352548

内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 2025. 糖転移化合物による難溶性化合物の溶解性改善. *オレオサイエンス* **25(12)**:531-537. doi:10.5650/oleoscience.25.531

著書

「図解 物理薬剤学」, 杉林 堅次 監修, 佐久間 信至 編, 南山堂 (東京).

「基礎と臨床をつなぐ物理薬剤学・製剤学 (第2版)」, 南山堂 (東京).

学会発表

Tozuka Y, Hatanaka Y, Tanaka R, Kadota K, Uchiyama H. Developing an Innovative Coamorphous Salt Formulation of Telmisartan with Amlodipine to Enhance Permeability and Oral Absorption. 83rd FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences, 2025 年 8 月 (Copenhagen).

Uchiyama H, Kakuyama H, Nomoto Y, Tanaka R, Kadota K, Tozuka Y. Enhanced Solubility and Membrane Permeability by Coamorphous Nanoparticles via Co-Precipitation of Two Drugs. 83rd FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences, 2025 年 8 月 (Copenhagen).

Tanaka R, Nagatani M, Togashi R, Uchiyama H, Tanaka S, Kadota K, Tozuka Y. Design of Spray Dried Cyclodextrin-Metal organic Framework Particles Containing Hydrophobic and Hydrophilic Compounds. 83rd FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences, 2025 年 8 月 (Copenhagen).

Takegawa Y, Sugimoto M, Uchiyama H, Kadota K, Tozuka Y. Development of a Modified Arrhenius Equation to Predict the Kinetics of Nitrosation of Active Drug in Solid Dosage Form. AAPS PharmSci360, 2025 年 11 月 (USA) .

Uchiyama H, Kunioka D, Aoyagi T, Shirahama A, Takeda H, Tanaka R, Tozuka Y. Design of dissolving microneedles based on amorphous salt formation for controlled drug release. AAPS PharmSci360, 2025 年 11 月 (USA) .

Nakayama Y, Shimoazono A, Kämäräinen T, Tanaka R, Uchiyama H, Kadota K, Tozuka Y. Design of Drug-Loaded Supraparticles: Morphological Control and Release Characteristics. The 2nd International Conference in Pharmaceutics and Cosmetics (ICPCos 2025) , 2025 年 12 月 (Malaysia) .

Tozuka Y. Enhancing Solubility and Bioavailability of Poorly Water-Soluble Compounds via Self-Assembled Nanocomposite Formulations. The 2nd International Conference in Pharmaceutics and Cosmetics (ICPCos 2025) , 2025 年 12 月 (Malaysia) .

Ando K, Uchiyama H, Minoura K, Kadota K, Tanaka R, Tozuka T. Elucidation of the Molecular Assembly Structure and Gelation Mechanism of Monoammonium Glycyrrhizic Acid. The 4th Korea-Japan Young Scientists Workshop on Pharmaceutics, 2025 年 6 月 (Seoul).

Aoyagi T, Uchiyama H, Morisita D, Kadota K, Ando D, Koide T, Tozuka Y. Controlled drug dissolution from dissolving microneedles containing amorphous salt. The 4th Korea-Japan Young Scientists Workshop on Pharmaceutics, 2025 年 6 月 (Seoul).

Tanaka R, Uchiyama H, Kadota K, Tozuka Y. Formation of Cocrystal Dispersion in Polymeric Excipient with Exceptional Dissolution Rate. The 4th Korea-Japan Young Scientists Workshop on Pharmaceuticals, 2025 年 6 月 (Seoul).

畑中 悠成, 平田 雅彦, 内山 博雅, 田仲 涼真, 戸塚 裕一. 酵素処理ルチンを用いた p-ボロノフェニルアラニンとの複合体製剤の設計. 第 21 回 日本中性子捕捉療法学会学術大会, 2025 年 7 月 (長崎) .

春名 誠司, 下田 瑛太, 内山 博雅, 門田 和紀, 三村 尚志, 戸塚 裕一. 光照射 DSC による医薬品の光安定性評価. 第 61 回 熱測定討論会, 2025 年 9 月 (神奈川) .

Mo P, Tanaka R, Uchiyama H, Kadota, K Tozuka Y. Rapid Screening for Multi-component Crystals using Resonant Acoustic Mixing. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

田仲 涼真, 青木 紗恵, 小山 朋花, 安藤 憲太, 加藤 巧馬, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 複合体結晶のビルドアップ形成を利用した機能性ゲル製剤の設計. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

田仲 涼真. ラマン分光法とケモメトリックスによる天然物原料の評価について . 日本栄養評議会 第 119 回勉強会, 2025 年 2 月 (Web 開催) .

田仲 涼真. 超分子のアプローチを基盤とした機能性製剤の設計. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

武政 匡輝, 内山 博雅, 田仲 涼真, 戸塚 裕一. サルブタモールとデカン酸間での深共晶溶解媒形成と経皮吸収型製剤への応用, 日本薬学会第 146 年会. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

辻 千尋, 田仲 涼真, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 貧溶媒析出によるインドメタシン-ファモチジン共非晶質ナノ粒子の形成. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

岡 愛花, 田仲 涼真, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 三成分系固体分散体の形成に基づく吸入配合剤の粒子設計. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

角山 博人, 内山 博雅, 田仲 涼眞, 戸塚 裕一. 高含有化と吸収性改善を指向した共沈現象によるシクロスポリン非晶質複合体ナノ粒子の調製検討. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

瀧打 愛菜, 中山 結月, Kämäräinen T, 田仲 涼眞, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 吸入粉末剤化を目指した levofloxacin 含有 Supraparticles の設計. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

柳井 優花, 内山 博雅, 田仲 涼眞, 安藤 大介, 小出 達夫, 戸塚 裕一. 薬物の溶出および血中動態の制御を目指したマイクロニードル製剤の処方検討. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

下園 彩花, 中山 結月, Kämäräinen T, 田仲 涼眞, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 薬物を含有した超微粒子集合体粒子の粒子物性および薬物溶出性に関する評価. 日本薬剤学会第 40 年会, 2025 年 5 月 (東京).

長谷 美咲, 田仲 涼眞, 富樫 龍汰, 箕浦 克彦, 内山 博雅, 田中 俊輔, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 噴霧乾燥法による疎水性および親水性薬物を高含有化した CD-MOF 粒子の設計. 日本薬剤学会 第 40 年会, 2025 年 5 月 (東京).

畑中 悠成, 内山 博雅, 田仲 涼眞, 平田 雅彦, 戸塚 裕一. 酵素処理ルチンを用いた p-ボロノフェニルアラニンとの複合体製剤の設計. 日本薬剤学会 第 40 年会, 2025 年 5 月 (東京).

野本 康博, 内山 博雅, 角山 博人, 田仲 涼眞, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 2 成分間の共沈現象を利用した非晶質複合体ナノ粒子の調製と評価. 日本薬剤学会 第 40 年会, 2025 年 5 月 (東京).

中山 結月, 下園 彩花, Kämäräinen T, 田仲 涼眞, 内山 博雅, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 薬物違いによる Supraparticles の粒子形態変化と各薬物の溶出挙動の比較. 粉体工学会 2025 年度春期研究発表会, 2025 年 5 月 (仙台) .

田仲 涼眞. 結晶化経路と製造プロセスに基づく共結晶の多様性. 粉体工学会 医薬品共結晶のモニタリングおよび粒子設計ワークショップ, 2026 年 2 月 (高知) .

学術論文

GBD 2023 Lower Respiratory Infections and Antimicrobial Resistance Collaborators. 2025 Apr 25. Effects of Training of Pharmacists in Japan on Reasonable Accommodations for People with Intellectual Disabilities. *Disabilities* **5(2)**:43. doi:10.3390/disabilities5020043.

Shoji M, Imafuku R, Mizomoto M, Onda M. 2025 Jul 3. Exploring how Japanese pharmacists provide reasonable accommodations for persons with intellectual disabilities. *BMC Health Serv Res* **25(1)**:913. doi:10.1186/s12913-025-13035-7

Yamabe K, Arakawa Y, Shoji M, Miyamoto K, Tsuchiya T, Fujii S, Minoura K, Akeda Y, Tomono K, Fukunaga R, Onda M. 2026 Jan 31. Functional trihydroxyl germanium moiety in THGP confers novel enzyme activity inhibition abilities while also attenuating intracellular effects against multidrug-resistant *Acinetobacter baumannii*. *Metallomics* **18(1)**:mfag008. doi:10.1093/mtomcs/mfag008

Funabashi A, Ito H, Maeda M, Hasegawa Y, Tsukioka R, Onda M. 2025 Apr 3. Evaluation of dipeptidyl peptidase-4 inhibitor-associated gastrointestinal symptoms using the prescription claims database. *Sci Rep* **15(1)**:11494. doi:10.1038/s41598-025-96103-6

Funabashi A, Ito H, Maeda M, Hasegawa Y, Tsukioka R, Onda M. 2025 Aug 28. Evaluation of a Community Pharmacist-Led Intervention Program for Early Detection of Gastrointestinal Adverse Events of Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors: A Multicenter, Non-Randomized Comparative Study. *Pharmacy (Basel)* **13(5)**:119. doi:10.3390/pharmacy13050119

Fukuda Y, Ito R, Kakihana M, Kunita M, Takahashi T, Kanemoto T, Sahara T, Tsujikawa M, Onda M. 2025 Nov 7. Effects of hospital pharmacist-community pharmacist collaboration on solving pharmacotherapy problems in stroke patients with post-discharge transitions: non-randomized comparative study. *BMC Neurol* **25(1)**:459. doi:10.1186/s12883-025-04474-0

著書

对患者コミュニケーション, 生涯学習・哲学・マインドセット・教訓, 「薬剤師のための
クリニカル・パール」, 北 和也, 平井 みどり, 青島 周一 編集, 金芳堂 (京都). ISBN:
978-4-7653-2080-1

第2章 (患者中心の医療), 第6章 (社会・地域における薬剤師の活動), 第12章 (アウ
トカムの可視化), 「これからのコミュニティファーマシー」, 恩田 光子, 岡田 浩 編著,
南江堂 (東京). ISBN: 978-4-524-40459-9

「あなたに合ったやり方でいつの間にか禁煙できる本」, 坂根 直樹, 恩田 光子 編著, 一
般社団法人 日本家族計画協会 (東京).

第2章 患者中心の医療. 6. 守秘義務, 個人情報保護, 情報開示, 説明責任, 「これからの
コミュニティファーマシー」, 恩田 光子, 岡田 浩 編, 南江堂 (東京). ISBN: 978-4-524-
40459-9

解説・プロシーディング・紀要・その他

庄司 雅紀, 恩田 光子. 2026. 認知行動療法の視点を取り入れた中学生を対象としたメンタ
ルヘルスリテラシー教育の一実践事例. 薬学教育 **10**:e10011.doi: 10.24489/jjphe.e10011

恩田 光子. 2025 Mar. 第4章アメリカにおける調査結果. 令和7年度厚生労働省保健局医
療課による委託事業「薬剤使用状況等に関する調査研究報告書」:1-74.

学会発表

Shoji M, Imafuku R, Mizomoto M, Onda M. A Qualitative Study on the Current Status of
Providing Medical Care to Patients with Intellectual Disabilities, and the Challenges
Involved. IASSIDD 5th Asia-Pacific Congress, 2025 年 10 月 (Singapore).

Shoji M, Imafuku R, Mizomoto M, Onda M. Exploring Issues in Education Regarding the
Provision of Reasonable Accommodations for Persons with Intellectual Disabilities in
Pharmacy Education. The 12th Asian Association of Schools of Pharmacy (AASP)
Conference 2025, 2025 年 8 月 (埼玉).

庄司 雅紀. 薬局管理栄養士と薬剤師の協働による効果：PDCA Study の紹介. 第 19 回日本薬局学会学術総会 シンポジウム 2「薬局管理栄養士と薬剤師の協働が拓く、地域の生活習慣改善支援」, 2025 年 11 月（札幌）.

庄司 雅紀. 薬局における管理栄養士と薬剤師の協働の課題と可能性. 日本社会薬学会 第 43 年会, 2025 年 9 月（和歌山）.

前田 初代, 福森 亮雄, 恩田 光子. 認知行動療法に基づく薬剤師のための認知症家族介護者支援プログラム（START-PharmD）の開発. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月（大阪）.

福田 裕子, 伊藤 里紗, 柿花 美沙紀, 國田 愛, 高橋 務, 金本 哲二, 佐原 敏之, 辻川 正彦, 恩田 光子. 脳卒中患者を対象とした、回復期リハビリテーション病棟退院後の処方継続性への薬業連携の効果. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月（大阪）.

臨床漢方薬学研究室

学術論文

Matsuda K, Shibano M. 2025. Chemical and pharmaceutical evaluation of roasted Ephedra herba and elucidation of the health hazards caused by white smoke generated during processing. *J Nat Med* **79**:1106-1121. doi:10.1007/s11418-025-01938-y

学会発表

芝野 真喜雄, 長澤 圭記, 竹中 伸吾, 柏木 翔和, 松田 昂樹. カンゾウ種間雑種 *G.uralensis* × *G.glabra* の地下部由来成分の老化細胞に対する抗 SASP 活性. 第 71 回 年会 日本生薬学会, 2025 年 9 月 (熊本) .

芝野 真喜雄, 栗田 悠, 竹中 伸吾, 柏木 翔和, 松田 昂樹. カンゾウ種間雑種 *G.uralensis* × *G.glabra* の地下部由来成分が脂肪細胞の分化に与える影響. 第 71 回 年会 日本生薬学会, 2025 年 9 月 (熊本) .

芝野 真喜雄, 松田 昂樹, 尾崎 和男. ウラルカンゾウ (*G. uralensis*) × スペインカンゾウ (*G. glabra*) の育種とその意義について. 日本植物園協会 第 60 回大会研究発表会, 2025 年 5 月 (静岡) .

尾崎 和男, 野崎 香樹, 芝野 真喜雄. トウキの栽培研究. 難抽苔系統の育成の可能性について. 薬用植物栽培研究会第 7 回研究総会, 2025 年 12 月 (栃木) .

臨床薬学教育研究センター

学術論文

Matsumura M, Nakamura T, Kadoyama K, Yano R, Iwanaga K, Imanishi K, Yamanishi K, Nakakura I, Une Y, Nakamura T. 2025 Nov 18. Five-year follow-up with the incidence of cardiovascular adverse events after prescribing single-pill combination of antihypertensive drugs: retrospective cohort study. *J Pharm Health Care Sci* **11(1)**:103. doi:10.1186/s40780-025-00510-w

Matsumura M, Nishida K, Toyoda K, Kadoyama K, Yano R, Kanazawa T, Nakamura T, Morishima Y. 2026 Feb 13. Quantifying improvement of psychotic symptoms in clozapine-treated schizophrenia: clinical note analysis with large language models. *Sci Rep* **16**:8835. doi:10.1038/s41598-026-39676-0

Nakayama K, Negoro T, Takubo H, Hayashi A, Taniguchi T, Nomura Y, Iwanaga K. 2025 Apr. Quantitative prediction of drug-drug interactions arising from CYP3A4 induction using chimeric mice with humanized liver. *Xenobiotica* **55(4)**:317-328. doi:10.1080/00498254.2025.2518239

Murata H, Kobayashi S, Nomura Y, Iwanaga K. 2025. Downregulation of HepaRG Cell CYP Genes by Hypoxia Inducible Factor Prolyl Hydroxylase (HIF-PH) Inhibitor. *Biol Pharm Bull* **48(11)**:1794-1802. doi:10.1248/bpb.b25-00498

Okawa H, Kobayashi S, Taniguchi T, Nomura Y, Iwanaga K. 2026 Jan 15. A novel screening method for cytochrome P450 induction in early drug discovery using advanced biomimetic chromatography targeting the pregnane X receptor. *J Pharm Biomed Anal* **268**:117219. doi:10.1016/j.jpba.2025.117219

Kuno M, Okayama Y, Yasui Y, Shibata W, Moriguchi M, Nakaya Y, Horiuchi M, Ido K, Sakatoku K, Makuuchi Y, Nagasaki J, Okamura H, Nishimoto M, Nakashima Y, Nakamae M, Yasui H, Takeya H, Hino M, Nakamae H, Miyagawa H. 2025 Nov. Effects of routes, concentrations and genetic polymorphisms on posaconazole-tacrolimus interactions in allogeneic haematopoietic cell transplantation. *Br J Clin Pharmacol* **91(11)**:3288-3296. doi:10.1002/bcp.70264

Yasui Y, Yasui H, Yamamoto Y, Ishizaka T, Hatanaka K, Imoto W, Shibata W, Yamada K, Kakeya H. 2025. Prospective Analysis of Factors Influencing Inter-Individual Variation in Trough Plasma Voriconazole Concentrations in Older Patients-Impact of High α 1-Acid Glycoprotein Levels. *Biol Pharm Bull* **48**(5):694-705. doi:10.1248/bpb.b25-00057

著書

循環器疾患の薬剤一覧, 「循環器疾患最新の治療 2026-2027」, 伊藤 浩 監修, 山下 武志, 安斉 俊久, 大倉 宏之 編集, 南江堂 (東京) .

検査値リスト, 「治療薬ハンドブック 2026」, 高久 史磨 監修, 堀 正二 他編, じほう (東京) .

学会発表

Nakamura T, Yamashita K, Nishida S, Iwanaga K, Yamamoto K, Yano I. Evaluation of blood concentrations and isotope ratios of copper and zinc after cisplatin-based chemotherapy.. 14th International ISSX Meeting, 2025 年 9 月 (USA) .

Iwanaga K, Sasaki M, Nakamura T. Application of PVP as a Pharmaceutical Excipient to Avoid Interactions between Green Tea Components and Drugs. 2025 Asian Federation for Pharmaceutical Sciences Conference, 2025 年 12 月 (Sydney) .

Okawa H, Kobayashi S, Hideaki M, Nomura Y, Iwanaga K. A Novel Screening and Machine Learning Method for Cytochrome P450 Induction in Early Drug Discovery Using Advanced Biomimetic Chromatography Targeting the Pregnane X Receptor. 23rd Discovery on Target, 2025 年 9 月 (Sydney) .

羽田 理恵, 矢野 良一, 角山 香織, 加藤 隆児, 佐藤 卓史, 中村 敏明. 薬学部における知識統合を促進する教育の取り組み状況. 第 10 回 日本薬学教育学会大会, 2025 年 8 月 (東京) .

角山 香織, 三宅 萌瑛, 矢野 良一, 中村 敏明. 実務実習前の臨床体験に学生は何を求めるか? ~実務実習修了後学生の考え~. 第 10 回 日本薬学教育学会大会, 2025 年 8 月 (東京) .

角山 香織, 小佐野 博史. 未来に繋ぐ薬学教育—大学では何を学ぶのか。コアカリの意義を考える—. 第 10 回 日本薬学教育学会大会, 2025 年 8 月 (東京) .

松村 光紗, 西田 圭一郎, 矢野 良一, 角山 香織, 中村 敏明, 森島 陽介. 医師診療記録を用いた、クロザピン投与が難治性統合失調症患者の発話内容に及ぼす影響の解析. 第 19 回 日本統合失調症学会, 2025 年 4 月 (大阪) .

中村 敏明. シンポジウム：いまさら聞けない！医薬品情報の収集・提供. 第 19 回 日本薬局学会学術総会, 2025 年 11 月 (札幌) .

中村 敏明. シンポジウム：薬局薬剤師が目指す理想の薬剤師像を考える～理想の薬剤師になるために修得すべき能力、それを実現する研修とは～. 第 19 回 日本薬局学会学術総会, 2025 年 11 月 (札幌) .

三宅 萌瑛, 中村 敏明, 角山 香織. 実務実習前の臨床体験に学生は何を求めるか？(第 2 報) ～薬学部 1 年生の考え～. 第 19 回 日本薬局学会学術総会, 2025 年 11 月 (札幌) .

間瀬 広樹, 荒木 隆一, 長谷川 裕矢, 宮脇 未来, 板井 進悟, 上塚 朋子, 矢吹 拓, 矢野 良一. 薬剤師の症例検討会の実施が職場教育環境の満足に及ぼす影響. 第 35 回 日本医療薬学会年会, 2025 年 11 月 (神戸) .

宮脇 未来, 間瀬 広樹, 長谷川 裕矢, 板井 進悟, 上塚 朋子, 矢吹 拓, 荒木 隆一, 矢野 良一. 薬剤師の症例検討会のフィードバックが満足度に及ぼす影響. 第 35 回 日本医療薬学会年会, 2025 年 11 月 (神戸) .

古林 呂之, 田中 晶子, 森山 圭, 加治 元基, 前川 結香子, 岩永 一範, 坂根 稔康. 経口服用困難な患者における代替投与方法としての経鼻投与の有用性：市販経口剤を用いた吸収評価. 第 35 回 日本医療薬学会年会, 2025 年 11 月 (神戸) .

中村 任. 「医療薬学会の英文誌 (JPHCS) へ受理されるための秘訣」～図表をイメージして研究計画を立てよう～. 第 35 回 日本医療薬学会年会, 2025 年 11 月 (神戸) .

朴 ピナウル, 柳瀬 昌樹, 矢野 良一, 杉浦 丈仁, 天野 良幸, 澤井 勇希. 薬剤レビュー・処方最適化のための高度薬剤師業務. 第 47 回 日本病院薬剤師会近畿学術大会, 2026 年 2 月 (大阪) .

角山 香織. どうする？ 多職種連携教育 ～大阪医科薬科大学の取組みから～. 第 52 回 日本小児臨床薬理学会学術集会, 2025 年 11 月（大阪）.

鈴木 富雄, 島田 史生, 鄭 艶麗, 真継 和子, 大橋 尚弘, 有吉 真里菜, 中村 敏明, 角山 香織, 小池 敦資, 佐野 正幸. 高知県多職種連携地域医療実習の試み（第 6 報）. 第 57 回 日本医学教育学会大会, 2025 年 7 月（秋田）.

朴 ピナウル, 柳瀬 昌樹, 矢野 良一. 薬剤レビュー・患者そして他職種へ薬剤師の専門性をわかりやすく提示できる対人業務. 第 58 回 日本薬剤師会学術大会, 2025 年 10 月（京都）.

金 美恵子, 河合 悦子, 羽田 理恵, 坂口 実. 薬剤師の生涯教育としての褥瘡実技セミナーの取り組みとその有用性. 第 58 回 日本薬剤師会学術大会, 2025 年 10 月（京都）.

松田 大輝, 松村 光紗, 岩永 一範, 中村 敏明, 角山 香織, 矢野 良一, 中蔵 伊知郎, 畝 佳子, 中村 任. 抗血栓薬配合錠処方開始前後の服薬アドヒアランス変化と MACE 発症との関連解析. 第 8 回 フレッシュャーズカンファランス, 2025 年 6 月（京都）.

川田 航平, 松村 光紗, 岩永 一範, 中村 敏明, 角山 香織, 矢野 良一, 中蔵 伊知郎, 畝 佳子, 中村 任. 糖尿病用薬配合錠の服薬アドヒアランスと脳心血管イベント発症との関連解析. 第 8 回 フレッシュャーズカンファランス, 2025 年 6 月（京都）.

堂山 颯太, 鈴木 惲文, 矢野 良一, 中村 敏明, 角山 香織. GLP-1 受容体作動薬の自殺関連有害事象発現リスクの評価. 第 8 回 フレッシュャーズカンファランス, 2025 年 6 月（京都）.

羽田 理恵, 角山 香織, 加藤 隆児, 佐藤 卓史, 中村 敏明, 矢野 良一. 薬学部におけるカリキュラム・ポリシーの分析：知識統合に関連する記述はどの程度見られるか. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月（大阪）.

朴 ピナウル, 矢野 良一, 柳瀬 昌樹, 杉浦 丈仁, 天野 良幸, 澤井 勇希. 地域における薬剤レビュー導入の実践と課題/浪速区モデルの構築から見えた可能性. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月（大阪）.

Yasui Y, Yasui H, Okayama Y, Kuno M, Kou H, Sasaki S, Imoto W, Shibata W, Yamada K, Kakeya H. Analysis of factors affecting posaconazole serum concentration in patients with

blood disorders. the 23rd Congress of the International Association of Therapeutic Drug Monitoring and Clinical Toxicology, , 2025 年 9 月 (Singapore) .

安井 友佳子, 櫻井 紀宏, 掛屋 弘, 安井 裕之. ポリコナゾールの血漿中トラフ濃度の個体間変動に影響を与える因子の後ろ向き探索と評価. 第 35 回 日本医療薬学会年会, 2025 年 11 月 (神戸) .

Yasui Y, Okayama Y, Kuno M, Kou H, Yasui H, Shibata W, Takeya H. 造血器疾患患者におけるポサコナゾールの
血中濃度に影響を与える因子の解析
～薬剤肝代謝率と遺伝子多型の影響～. 第 41 回 日本 TDM 学会・学術大会, 2025 年 7 月 (大阪) .

衛生化学研究室

学術論文

Azuma T, Katagiri M, Yamamoto T, Kuroda M, Watanabe M. 2025 Aug 7. Effectiveness of Implementing Hospital Wastewater Treatment Systems as a Measure to Mitigate the Microbial and Antimicrobial Burden on the Environment. *Antibiotics (Basel)* **14**(8):807. doi:10.3390/antibiotics14080807

Azuma T, Usui M, Hasei T, Hayash T. 2026 Feb. Distribution of Antimicrobials, Antimicrobial-resistant Bacteria, and their Genes in Hospital Effluents, Wastewater Treatment Plants, and Receiving Rivers of Urban River Basins in Japan. *J Environ Chem Eng* **14**(1):120605. doi:10.1016/j.jece.2025.120605

Azuma T, Tsukada A, Fujii N, Katagiri M, Nakamura I, Shimizu H, Tatsuno K, Watanabe M, Ohmagari N, Matsunaga N. 2026 Jan 3. First Multi-Facility Antimicrobial Surveillance in Japanese Hospital Wastewater Reveals Spatiotemporal Trends and Source-Specific Environmental Loads. *Antibiotics (Basel)* **15**(1):50. doi:10.3390/antibiotics15010050

Kitano T, Matsunaga N, Akiyama T, Azuma T, Fujii N, Tsukada A, Hibino H, Kuroda M, Ohmagari N. 2026 Jan 19. Environmental Dissemination of Antimicrobial Resistance: A Resistome-Based Comparison of Hospital and Community Wastewater Sources. *Antibiotics (Basel)* **15**(1):99. doi:10.3390/antibiotics15010099

Azuma T, Adachi F, Kawahara R, Yamaguchi N, Kanamori H. 2026 Feb. First nationwide survey of the distribution and seasonal variation of antimicrobials in effluents from wastewater treatment plants in Japan. *J Hazard Mater Adv* **21**:101054. doi:10.1016/j.hazadv.2026.101054

Zhong X, Lv W, Li X, Wang L, Zhang M, Liu K, Dong J, Yuan Q, Zhang S, Wu A, Gong X, Liu J, Zhou B, Ye S, Wang Q, Xiang Y, Tian XL. 2025. 名城大学薬学部標本室収蔵の生薬標本についての考察 ～芍薬関連生薬の調査を通して～. *Jpn J History Pharm* **60**(2):133-140. doi:doi: 10.34531/jjhp.60.2_133

総説

Kazaoka A, Okuhira K. 2026 Jun 1. Commentary on "the ATPase activity of ABCA1 is increased by cholesterol in the presence of anionic lipids". *J Biochem* **179**(6):379-381. doi:10.1093/jb/mvag003

Aoki S, Kazaoka A, Ito K. Recent Insights into HLA-dependent Idiosyncratic Liver Injury. *Yakugaku Zasshi* **146**(2):115-122. doi:10.1248/yakushi.25-00145-3

解説・プロシーディング・紀要・その他

風岡 顯良. 2025 Jul 15. 名城大学薬学部標本室収蔵の茶葉関連生薬の標本. *名城大学総合研究所紀要* **30**:.ISSN: 1344-8099

学会発表

Tsujita M, Nakasuka K, Remaley AT, Mineo C, Shaul P, Yokoyama S, Okuhira K. Unesterified cholesterol is abundant in Scarb1 null mouse plasma even without Abcg1. American Heart Association's Vascular Discovery: From Genes to Medicine 2025 Scientific Sessions, 2025 年 6 月 (Baltimore) .

Aoki S, Kazaoka A, Fujimori S, Yamada Y, Susukida T, Ito K. Intracellular HLA-drug interaction in keratinocytes drives HLA-B*57:01-dependent abacavir skin toxicity. SOT 65th Annual Meeting and ToxExpo, 2026 年 3 月 (USA).

東 剛志, 黒田 誠, 片桐 美和, 渡邊 学. 環境水・医療排水中に内在する薬剤耐性菌及び抗菌薬の実態と不活化法の開発. 第 40 回 日本環境感染学会総会・学術集会, 2025 年 7 月 (横浜) .

羽瀧 康容, 小島 日和, 大久保 紗希, 堤野 文菜, 東口 結子, 山本 愛葉, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎. グルコースが ABCA7 発現制御に与える影響. 第 46 回 生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2025 年 11 月 (滋賀) .

風岡 顯良, 楠本 嵩志, 佐久間 覚, 奥平 桂一郎. HDL 受容体スカベンジャー受容体 BI における N 型糖鎖の役割. 第 46 回 生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2025 年 11 月 (滋賀) .

羽瀧 康容, 小島 日和, 大久保 紗希, 堤野 文菜, 東口 結子, 山本 愛栞, 佐久間 寛, 奥平 桂一郎. 糖代謝がミクログリア ABCA7 発現に与える影響とその発現制御機構の解析. 第 98 回 日本生化学会大会, 2025 年 11 月 (京都) .

加藤 早希, 浅井 園茄, 田畑 なる, 中野 友絵, 羽瀧 康容, 楠本 嵩志, 風岡 顕良, 佐久間 寛, 奥平 桂一郎. 既存抗腫瘍薬と比較したパクリタキセル封入合成 HDL の有用性評価. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

高田 遼太郎, 西山 寧々, 小泉 安由紗, 風岡 顕良, 楠本 嵩志, 羽瀧 康容, 佐久間 寛, 奥平 桂一郎. 2 型糖尿病及び脳梗塞を併発したマウスの血液脳関門障害には終末糖化産物及びその受容体シグナルが関与する. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

水島 壮一郎, 安井 司, 小野 志織, 羽瀧 康容, 風岡 顕良, 楠本 嵩志, 佐久間 寛, 奥平 桂一郎. スカベンジャー受容体クラス B タイプ 1 を介したトランスフェクション活性の評価. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

浅井 園茄, 加藤 早希, 田畑 なる, 羽瀧 康容, 楠本 嵩志, 風岡 顕良, 佐久間 寛, 奥平 桂一郎. 腫瘍標的化の向上を目的とした合成 HDL の組成設計. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

風岡 顕良, 土谷 聡耀, 奥平 桂一郎, 杉山 雄一. 静脈内投与データが存在しない場合における PBPK モデリング: 組織 K_p 推定の影響. 日本薬物動態学会 第 40 年会, 2025 年 10 月 (京都) .

感染制御学研究室

学術論文

Yagi M, Hirokawa Y, Sagisaka Y, Hama M, Takeda S, Komano JA. 2025 Sep. Intron-oriented HTLV-1 integration in an adult T-cell leukemia/lymphoma cell line sustains expression of intact *ift81* mRNA. *FEBS Lett* **599**(18):2620-2628. doi:10.1002/1873-3468.70104

Yagi M, Tomita C, Hama M, Krol R, Gee P, Hotta A, Komano J. 2025 Nov. Targeted gene removal by SpCas9 transduced by a protein-RNA complex transduction system NanoMEDIC. *OpenNano* **26**:100257. doi:10.1016/j.onano.2025.100257

Shirai T, Motooka D, Ushikai Y, Komano J, Shioda T, Iida T, Sakon N. 2025 Jul 10. Molecular epidemiology of human sapovirus based on the surveillance of wastewater and patients with acute gastroenteritis in Osaka, Japan. *Sci Total Environ* **985**:179622. doi:10.1016/j.scitotenv.2025.179622

Ishibashi M, Yonogi S, Tani M, Hiura C, Hosokawa D, Matsuta N, Sagisaka Y, Yagi M, Hasei T, Hayashi M, Shiwa Y, Maruyama F, Tanaka D, Okuda T, Maki T, Komano J. 2026 Mar 6. Isolation of *Clostridioides difficile* from the atmospheric fine particulate matter. *BMC Microbiol* **26**(1):343. doi:10.1186/s12866-026-04888-x

学会発表

Kosugi A, Komano J, Tsukahara M, Takasu N, Esteban MA, Krol RP. DEVELOPMENT OF AN AUTOMATED 3D PLATFORM FOR MANUFACTURING PLURIPOTENT STEM CELL-BASED CLINICAL CELL THERAPY PRODUCTS. ISSCR 2025 HONG KONG, 2025 年 6 月 (Hong Kong).

Yagi M, Hama M, Kanbayashi D, Kurata T, Yusa K, Komano J. Sphingomyelin synthase 1 is involved in two critical steps of the rubella virus life cycle. The 23rd Awaji International Forum on Infection and Immunity, 2025 年 9 月 (兵庫) .

Komano JA, Yonogi S, Yagi M, Hasei T, Hayashi M, Shiwa Y, Maruyama F, Tanaka D, Okuda T, Maki T. Clostridioides difficile flies - Isolation of C. difficile from the atmospheric aerosol. The 23rd Awaji International Forum on Infection and Immunity, 2025 年 9 月（兵庫）.

八木 真裕子, 駒野 淳. アポトーシス誘導ナノ粒子 CASP-LENA による治療抵抗性ヒト上皮性腫瘍細胞株に対する殺細胞性の評価. 第 146 回 日本薬学会, 2026 年 3 月（大阪）.

松田 捺見, 谷 桃佳, 日浦 千尋, 石橋 都, 細川 大輔, 鷺坂 祐作, 八木 真裕子, 余野木 伸哉, 牧 輝弥, 奥田 知明, 田中 大佑, 丸山 史人, 駒野 淳. 大気バイオエアロゾルから分離された clostridioides difficile の芽胞形成能. 第 16 回 大気バイオエアロゾルシンポジウム, 2026 年 2 月（大阪）.

駒野 淳. 気候変動と感染症. 第 21 回 関西大学・大阪医科薬科大学 医工薬連環科学教育研究機構シンポジウム, 2026 年 1 月（大阪）.

駒野 淳. 「空気感染」による COVID-19 アウトブレイクの臨床的特徴：メタ解析. 第 38 回 近畿エイズ研究会学術集会, 2025 年 6 月（京都）.

安岡 あづき, 矢倉 裕輝, 久利 歩, 藤原 綾乃, 駒野 淳, 渡邊 大. ABCG2 遺伝子多型と HIV-1 感染症の初回治療におけるビクテグラビルの有効性および安全性の関連. 第 38 回 近畿エイズ研究会学術集会, 2025 年 6 月（京都）.

松田 捺見, 谷 桃佳, 日浦 千尋, 石橋 都, 細川 大輔, 鷺坂 祐作, 八木 真裕子, 余野木 伸哉, 牧 輝弥, 奥田 知明, 田中 大佑, 丸山 史人, 駒野 淳. 大気バイオエアロゾル由来の clostridioides difficile と臨床・環境分離株の芽胞形成能の比較解析. 第 40 回 日本環境感染学会総会・学術集会, 2025 年 7 月（横浜）.

谷 桃佳, 松田 捺見, 日浦 千尋, 石橋 都, 細川 大輔, 鷺坂 祐作, 八木 真裕子, 牧 輝弥, 奥田 知明, 田中 大佑, 丸山 史人, 駒野 淳. 大気バイオエアロゾルから分離された clostridioides difficile の分子疫学的解析. 第 40 回 日本環境感染学会総会・学術集会, 2025 年 7 月（横浜）.

河原 彩乃, 片山 綾音, 安岡 あづき, 八木 真裕子, 武田 哲, 駒野 淳. HTLV-1 プロウィルスゲノム除去による成人 T 細胞白血病細胞の増殖抑止. 第 48 回 日本分子生物学会年会, 2025 年 12 月（横浜）.

原田 哲也, 中村 寛海, 梅川 奈央, 梅田 薫, 山口 貴弘, 河原 隆二, 駒野 淳, 河合 高生. 症例に由来する vanD 保有 *Enterococcus faecium* の全ゲノムシーケンス. 第 54 回 薬剤耐性菌研究会, 2025 年 11 月 (茨城) .

日浦 千尋, 松田 奈美, 亀本 陽菜, 八木 真裕子, 駒野 淳. 日本の臨床および環境に由来する *Clostridioides difficile* の包括的遺伝子型解析. 第 55 回 日本嫌気性菌感染症学会総会・学術集会, 2026 年 3 月 (神奈川) .

金子 和樹, 山本 優生, 八木 真裕子, 駒野 淳. *Clostridioides difficile* の芽胞形成に関与する因子の解析. 第 55 回 日本嫌気性菌感染症学会総会・学術集会, 2026 年 3 月 (神奈川) .

八木 真裕子, 武田 哲, 駒野 淳. ECHO11 ウイルス感染における CCDC22 の役割について. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

八木 真裕子, 広沢 裕香, 鷺坂 勇作, 浜 みなみ, 武田 哲, 駒野 淳. Sustained expression of intact ift81 mRNA despite intron-oriented HTLV-1 integration in an ATL cell line ED. 第 84 回 日本癌学会学術総会, 2025 年 9 月 (石川) .

八木 真裕子, 岡田 花名美, 駒野 淳. HSV-1 複製におけるスフィンゴミエリンシンターゼ 1(SGMS1)の役割について. 第 98 回 日本生化学会大会, 2025 年 11 月 (京都) .

田崎 稜真, 駒野 淳. 短い無性候期を特徴とする空気感染による COVID-19 アウトブレイク: メタ解析. 第 99 回 日本感染症学会総会, 2025 年 5 月 (横浜) .

田崎 稜真, 森 ゆきな, 土屋 孝弘, 駒野 淳, 辻坊 裕, 田邊 知孝, 舟橋 達也, 宮本 勝城. *Vibrio vulnificus* M2799 株の致死性毒素 MARTX 毒素の N 末端リピート領域の解析. 第 99 回 日本細菌学会総会, 2026 年 3 月 (広島) .

森 ゆきな, 田崎 稜真, 土屋 孝弘, 駒野 淳, 辻坊 裕, 田邊 知孝, 舟橋 達也, 宮本 勝城. *Vibrio vulnificus* M2799 株の致死性毒素 MARTX 毒素の解析. 第 99 回 日本細菌学会総会, 2026 年 3 月 (広島) .

目次 結香, 加藤 文乃, 八木 真裕子, 駒野 淳. 風疹ウイルス持続感染による ROS 低下と酸化ストレス応答抑制の解析. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

中尾 樹希, 三瓶 悠, 鬼塚 和光, 柴田 淳史, 堂野 主税, 和田 健彦, 駒野 淳, 山吉 麻子.
光応答性ペプチド核酸による外来性ヌクレアーゼ非依存型ゲノム編集. 日本薬学会第 146
年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

生体機能解析学研究室

学術論文

Kwankaew N, Okuda H, Ishikawa T, Hori K, Ozaki N. 2026 Mar. Betanin ameliorates dextran sulfate sodium-induced colitis in mice by modulating tight junction protein expression. *Biochem Biophys Rep* **45**:102504. doi:10.1016/j.bbrep.2026.102504

Isonishi A, Tatsumi K, Okuda H, Tanaka T, Hattori T, Wanaka A. 2025 Apr 26. Macrophage Deficiency of Sorting Nexin 25 Suppress Plaque Formation in Atherosclerotic Lesions in Mice. *Acta Histochem Cytochem* **58(2)**:101-106. doi:10.1267/ahc.24-00055

学会発表

辰巳 晃子, 石西 綾美, 奥田 洋明, 田中 達英, 和中 明生, 服部 剛志. マクロファージにおける SNX25 欠損はマウス動脈硬化病変のプラーク形成を抑制する. 第 131 回日本解剖学会総会, 2025 年 3 月 (東京) .

寺島 由梨, 川口 薫乃, 田中 智, 奥田 洋明. 成獣マウス脳における HepaCAM 陽性アストロサイトの局在. 第 131 回日本解剖学会総会, 2025 年 3 月 (東京) .

川口 薫乃, 寺島 由梨, 田中 智, 奥田 洋明. 成獣マウス脳におけるアストロサイトマーカーの発現分布. 第 131 回日本解剖学会総会, 2025 年 3 月 (東京) .

石川 達也, 奥田 洋明, 堀 紀代美, 尾崎 紀之. 痛み刺激に応答する脳神経細胞の機能解析. 第 47 回 日本疼痛学会 (JAPAN PAIN WEEK 2025) , 2025 年 12 月 (東京) .

生化学研究室

学術論文

Ito C, Yamamoto M, Yokota N, Nakamura N, Shiomi M, Kizu, M Ichinose M, Fuji Si, Fujii, T Fukunaga R. 2025 Dec. Dissecting stress-activated protein kinase (SAPK)-signaling pathways using multiplex gene knockout HeLa cells. J Biol Chem 301(12):110901. doi:10.1016/j.jbc.2025.110901

学会発表

伊藤 千紘, 田村 茜, 山本 美麗, 冨田 美月, 横田 のぞみ, 佐藤 太一, 中村 菜乃花, 藤井 忍, 藤井 俊裕, 福永 理己郎. HeLa 細胞および THP-1 細胞におけるストレス応答プロテインキナーゼ (SAPK) 遺伝子の機能解析. 第 48 回 日本分子生物学会年会, 2025 年 12 月 (横浜) .

伊藤 千紘, 田村 茜, 冨田 美月, 佐藤 太一, 藤井 俊裕, 藤井 忍, 福永 理己郎. 炎症応答における SAPK ファミリー分子の役割分担の解析 一多重遺伝子ノックアウト THP-1 細胞を用いて一. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

山本 湖, 飯塚 菜月, 藤井 忍, 伊藤 千紘, 福永 理己郎. 初期応答遺伝子発現における SRF/TCF 転写因子の機能解析 一多重遺伝子ノックアウト HeLa 細胞を用いて一. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

川上 昂己, 山田 実奈, 高林 太玖弥, 藤井 俊裕, 藤井 忍, 伊藤 千紘, 福永 理己郎. MAPKAPK/S6K 遺伝子ファミリーの多重ノックアウト HeLa 細胞の機能解析 一リン酸化や初期応答遺伝子発現における役割分担一. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

木津 広夢, 岡本 乃彩, 藤井 忍, 伊藤 千紘, 福永 理己郎. ストレス応答シグナル伝達における I- κ B キナーゼの機能解析一多重遺伝子ノックアウト HeLa 細胞を用いて一. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

薬品物理化学研究室

学術論文

Yamada T, Tashiro R, Uemura M, Minoura K, Tomoo K, In Y, Komeda S. 2026 Mar 2. DNA Droplet Formation and Nucleic Acid-Binding Properties of a Cationic Dinuclear Platinum(II) Complex for the Construction of Biological Metal-Organic Frameworks. *Inorg Chem* **65**(8):4446-4459. doi:10.1021/acs.inorgchem.5c05180

Tsuchida T, Tsuchiya T, Minoura K, In Y, Miyamoto K, Taniguchi T, Ishida T, Tomoo K. 2025 Dec. Precise ligand-selective mechanism at the fab domain of a tau-recognizing antibody. *J Struct Biol* **217**(4):108250. doi:10.1016/j.jsb.2025.108250

機能分子創製化学研究室

学術論文

Mudiyanselage HNTN, Misawa T, Ochiai K, Demizu Y, Hanazono Y, Ito N, Fujii S. 2025 Oct 1. Structure-activity relationship and crystallographic analyses of non-secosteroidal vitamin D receptor ligands bearing diphenylsilane core as a hydrophobic pharmacophore. *Bioorg Med Chem* **128**:118261. doi:10.1016/j.bmc.2025.118261

Ochiai K, Yonezawa R, Fujii S. 2025 Oct 27. Modular Synthesis of Unsymmetrical 1,1'-Disubstituted Ferrocenes by Sequential Suzuki-Miyaura Cross-Coupling of 1,1'-Diborylferrocene. *Chemistry* **31(60)**:e202501026. doi:10.1002/chem.202501026

Mudiyanselage HNTN, Misawa T, Ochiai K, Demizu Y, Hanazono Y, Ito N, Fujii S. 2026 Jan 15. Design, synthesis and structural development of nonsecosteroidal VDR ligands based on the C,C'-diphenyl-m-carborane scaffold. *Eur J Med Chem* **302(Pt 2)**:118320. doi:10.1016/j.ejmech.2025.118320

Wakamori K, Hashikawa Y, Urata H, Wada SI. 2025 Dec 1. Redox-cleavable disulfide linker enhances siRNA delivery by prodrug-type bifunctional cell-penetrating peptide. *Bioorg Med Chem* **130**:118383. doi:10.1016/j.bmc.2025.118383

Yoshimoto M, Wada SI, Yoshii Y, Hanadate S, Inaki A, Fujii H. 2026 Jan. Enhanced Radionuclide Therapy via the Conjugation of Pentadecanoic Acids With (225)Ac- and (177)Lu-Labeled RGD Peptides. *Cancer Sci* **117(1)**:193-202. doi:10.1111/cas.70222

学会発表

落合 幸太郎, 影近 弘之, 藤井 晋也, 河崎 悠也, 友岡 克彦, 井川 和宣. フェロセンの多官能基化による高選択的 PR アンタゴニストの開発 . 2025 年度 生体医歯工学共同研究拠点成果報告会, 2026 年 3 月 (東京) .

Mudiyanselage HNTN, 影近 弘之, 花園 祐矢, 伊藤 暢聡, 三澤 隆史, 出水 庸介, 藤井 晋也. ジフェニルカルボラン骨格を用いた新規 VDR リガンドの構造展開. 2025 年度 生体医歯工学共同研究拠点成果報告会, 2026 年 3 月 (東京) .

Yoshimoto M, Wada S, Yoshii Y, Inaki A, Fujii H. Comparison study on PRRT using PD-K(177Lu-DOTA)-c(RGDfK) and PD-K(225Ac-DOTA)-c(RGDfK) in PDCA mice model. Society of Nuclear Medicine and Molecular Imaging Annual Meeting 2025 (SNMMI 2025), 2025 年 6 月 (USA).

若森 恵太, 橋川 柚月, 浦田 秀仁, 和田 俊一. Sterically refined cleavable disulfide linker-combined cell-penetrating peptides enable efficient cytosolic delivery of siRNA. 第 62 回 ペプチド討論会, 2025 年 10 月 (福岡) .

落合 幸太郎, 影近 弘之, 藤井 晋也. フェロセンの三次元構造を活用したステロイドホルモン受容体選択的アンタゴニストの開発. 日本レチノイド研究会 第 36 回 学術集会, 2025 年 10 月 (東京) .

有機薬化学研究室

学術論文

Usami Y, Asada N, Shizuma C, Negoro K, Kawai R, Kaneda S, Hayama N. 2025 Nov 23. Synthesis of 5-Hydroxy-5-vinyl-2-cyclopentenones, a Family of Rare-Type Natural Products Mostly Recovered from Marine Sources. *Mar Drugs* **23(12)**:449. doi:10.3390/md23120449

Hayama N, Horiyama S, Okamoto R, Nishi Y, Yada M, Higashida R, Haginaka J, Usami Y. 2025 Dec 11. Synthesis of the Abiraterone Derivatives 5 α - and 5 β - Δ (1)-Abiraterone and Structural Determination of an Unknown Metabolite in Human Serum Derived from Oral Abiraterone Acetate. *Chembiochem* **26(24)**:e202500675. doi:10.1002/cbic.202500675

総説

Harusawa S, Usami Y. 2025 Oct 17. Recent Progress in the Use of Cyanophosphates as Synthetic Intermediates. *Synthesis* **58(2)**:115-124. doi:10.1055/a-2704-6247

学会発表

奥村 薫志, 米山 弘樹, 深見 優希, 前田 澄怜, 中西 彩恵, 細畑 圭子, 金 徳男, 葉山 登, 高井 真司, 宇佐美 吉英. 新規 vanin-1 阻害剤合成法によるパンテテイン誘導体の合成と活性評価. 第 30 回 日本病態プロテアーゼ学会学術集会, 2025 年 8 月 (愛知) .

岡元 龍馬, 葉山 登, 東田 隆志, 西 由紀菜, 堀山 志朱代, 萩中 淳, 宇佐美 吉英. アビラテロンのシス AB 縮環型ステロイド代謝物の合成研究. 第 51 回 反応と合成の進歩シンポジウム, 2025 年 11 月 (広島) .

池田 秀吾, 岩見 優輝, 細畑 圭子, 金 徳男, 葉山 登, 米山 弘樹, 高井 真司, 宇佐美 吉英. 複素環部位をもつパンテテイン誘導体の合成と vanin-1 酵素阻害活性評価. 第 54 回 複素環化学討論会, 2025 年 10 月 (東京) .

武田 里美, 清水 愛結奈, 葉山 登, 米山 弘樹, 宇佐美 吉英. 五炭糖を原料とするピラゾール含有イミノ糖の合成. 第 54 回 複素環化学討論会, 2025 年 10 月 (東京) .

浅野 悠, 谷川 卓伸, 永井 陽帆, 若森 美路, 宮野 あかり, 田口 大樹, 朝田 瑞穂, 葉山 登, 米山 弘樹, 植沢 芳広, 宇佐美 吉英. 放線菌 *Streptomyces lincolnensis* が産生する-カルバ糖型天然物 lincitol A, B のキラル合成-. 第 67 回 天然有機化合物討論会, 2025 年 9 月 (宮城) .

片山 美奈, 浅野 悠, 田口 大樹, 李 沙羅, 葉山 登, 宇佐美 吉英. Lincitol A の合成: O-トリベンジル中間体の脱保護. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

高澤 帆夏, 米岡 星和, 高田 慎也, 原 史子, 萩森 政頼, 葉山 登, 宇佐美 吉英, 本田 千恵, 萩中 淳, 堀山 志朱代. アビラテロン誘導体に対する分子鑄型ポリマーを利用したアビラテロンおよびその代謝物の定量. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

宮野 あかり, 浅野 悠, 田口 大樹, 片山 美奈, 朝田 瑞穂, 小林 愛歩, 葉山 登, 植沢 芳広, 宇佐美 吉英. 放線菌 *Streptomyces lincolnensis* の代謝物の合成と生理活性. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

池本 翔真, 吉田 芽生, 奥野 礼華, 岩見 優輝, 葉山 登, 宇佐美 吉英. マイクロウェーブ照射を用いたラジカルブロモ化反応の研究. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

医薬分子化学研究室

学術論文

Yasuda D, Toyoshima K, Kojima K, Ishida H, Kaitoh K, Imamura R, Kanamitsu K, Kojima H, Funakoshi-Tago M, Osawa M, Ohe T, Hirano T. 2025 Nov 6. Development of Keap1-Nrf2 Protein-Protein Interaction Inhibitor Activating Intracellular Nrf2 Based on the Naphthalene-2-acetamide Scaffold, and its Anti-Inflammatory Effects. *ChemMedChem* **20(21)**:e202500474. doi:10.1002/cmdc.202500474

Komeda K, Toyoshima K, Yasuda D, Ishida H, Kojima K, Osawa M, Hirano T, Ohe T, Tago K, Funakoshi-Tago M. 2026 Jan. KMN003 activates Nrf2 via disruption of the Keap1-Nrf2 interaction and p38-dependent transcriptional regulation. *Cell Signal* **137**:112194. doi:10.1016/j.cellsig.2025.112194

Asano H, Kawaguchi T, Kato C, Morimoto S, Yano M, Minaguchi M, Yasuda D, Fukushima K, Okano H. 2025 Aug. Ropinirole Functions Through a Dopamine Receptor D2-Independent Mechanism to Ameliorate Amyotrophic Lateral Sclerosis Phenotypes in TARDBP-Mutant iPSC-Derived Motor Neurons. *J Neurochem* **169(8)**:e70183. doi:10.1111/jnc.70183

著書

第6章 生体分子の生合成と代謝, 「基礎薬学 V. 医薬品化学」(新スタンダード薬学シリーズ 第3巻), 新スタ薬シリーズ編集委員会 編, 東京化学同人(東京)。

学会発表

植田 祐一郎, 秋山 敏毅, 安田 大輔, Kuai Zhen, 平野 智也, 山下 泰信, 高田 悠里, 伊藤 幸裕, 鈴木 孝禎. アジド基を導入した Nrf2 活性化薬の創製研究. 創薬懇話会 2025, 2025 年 6 月 (滋賀).

安田 大輔, 山内 紗季, 平野 智也, 大江 知之. 抗がん剤感受性増強効果を有する p62-Keap1 タンパク質間相互作用阻害剤の創製. 第 26 回 菅原・大西記念癌治療増感シンポジウム, 2026 年 2 月 (兵庫).

浅田 萌香, 小橋 彬徳, 安田 大輔, 平野 智也. 特定の pH 領域で機能する光増感剤の開発研究. 第 47 回 日本光医学・光生物学会, 2025 年 7 月 (富山) .

大崎 愛弓, 星野 匡彦, 園畑 みずき, 坂野 翼, 平野 智也, 影近 弘之. ブラジル産薬用植物 *Quassia amara* 由来成分の蛍光特性と細胞への応用. 第 69 回 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会, 2025 年 11 月 (徳島) .

中本 紅葉, 井原 ななみ, 安田 大輔, 平野 智也. ダンシル基を有する N1-メチルアデノシン検出蛍光センサーの開発 . 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

小橋 彬徳, 浅田 萌香, 安田 大輔, 平野 智也. 弱酸性環境で機能する光増感剤の開発 . 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

安田 大輔, 多胡 めぐみ, 小島 行人, 石田 英子, 大澤 匡範, 大江 知之, 平野 智也. ナフタレン-2-アセトアミド構造を有する新規 Nrf2 活性化剤の創製 ―ピロリジン型アセトアミドの有用性― . 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

安田 大輔, 井上 小有里, 山内 紗季, 井上 大輔, 多胡 めぐみ, 大江 知之, 平野 智也. 新規 Nrf2 活性化剤の創成 ～ナフタレン-アセトアミド誘導体の構造展開～ . 第 78 回 日本酸化ストレス学会学術集会, 2025 年 5 月 (神奈川).

外菌 仁美, 山田 剛司, 平野 智也. 共培養を用いた菌類の代謝産生物質に関する研究. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

竹尾 亜美, 梅原 華音, 安田 大輔, 平野 智也, 水野 英哉. パーキンソン病モデル細胞における 2-ベンゾオキサゾリノン誘導体の効果 . 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

節家 千聖, 米田 慶二郎, 豊島 海, 安田 大輔, 平野 智也, 小島 行人, 石田 英子, 大澤 匡範, 大江 知之, 多胡 憲治, 多胡 めぐみ. Nrf2 活性化剤 KMN003 の効率的合成法の確立と抗炎症効果の検証 . 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

玉井 晶, 中平 時王, 安田 大輔, 平野 智也, 大江 知之. Keap1 結合型オートファジー検出蛍光プローブの合成と機能評価 . 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

小橋 彬徳, 浅田 萌香, 川尻 礼人, 名城 甲太, 安田 大輔, 平野 智也. 特定の pH 領域で機能する光増感剤の開発 . 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

堺 裕香子, 松本 勇輝, 楠木 萌, 安田 大輔, 平野 智也. 過酸化水素存在下で機能する Caged 化合物の開発 . 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

生薬科学研究室

学術論文

Kimura Y, Sumiyoshi M, Taniguchi M. 2025 Mar. Baicalein prevents skin damage, tumorigenesis and tumor growth in chronic ultraviolet B-irradiated hairless mice. *Photochem Photobiol Sci* **24**(3):479-497. doi:10.1007/s43630-025-00700-3

Murakami Y, Tobi Y, Emura K, Baba K, Taniguchi M, Furukawa F. 2025 Dec 2. Inactivation of Indoor Environmental Allergy-Related Substances by Ozonated Water In Vitro. *Trends Immunother* **9**(4):214-225. doi:10.54963/ti.v9i4.+A41:I411221

Murakami Y, Tobi Y, Emura K, Baba K, Taniguchi M, Furukawa F. 2026 Jan 19. Inactivation of Indoor Environmental Allergy-Related Substances by Ozone Gas in a Small Chamber. *Trends Immunother* **10**(1):86-94. doi:10.54963/ti.v10i1.1341

Kimura Y, Sumiyoshi M, Taniguchi M. 2026 Mar. Effects of xanthoangelol on chronic ultraviolet B irradiation-induced skin damage and tumorigenesis in hairless mice. *Pharmacol Res Nat Prod* **10**:100577. doi:10.1016/j.prenap.2026.100577

Hirata Y, Hayashi K, Kato T, Nagaoka Y, Doi M, Uesato S. 2026 Mar 10. Discovery of novel disulfide-containing PD-1/PD-L1 inhibitor with in vivo influenza therapeutic efficacy. *Sci Rep* **15**:32998. doi:10.1038/s41598-025-17982-3

著書

薬学・天然物化学・漢方療法, 「基礎薬学 V. 医薬品化学」(新スタンダード薬学シリーズ 第3巻), 新スタンダード薬学シリーズ編集委員会 編, 東京化学同人(東京)。

特許

中川 哲, 橋本 雅和, 平田 佳之, 谷口 雅彦. 掻痒抑制に用いるための剤およびその用途. PCT/JP2026/014201. 一丸ファルコス 株式会社, 大阪医科薬科大学.

中川 哲, 橋本 雅和, 平田 佳之, 谷口 雅彦. 化合物またはその塩およびその用途. 特願 2025-070879. 一丸ファルコス 株式会社, 大阪医科薬科大学.

学会発表

Shinya N, Han J, Taniguchi M, Sugiyama A, Yazaki K, Munakata R. Molecular characterization of cytochrome P450s involved in tricyclic coumarin biosynthesis in *Angelica keiskei*. Gordon Research Conference Bioorganic Chemistry, 2025 年 6 月 (USA).

新屋 和花, 韓 俊文, 谷口 雅彦, 三浦 謙治, 杉山 暁史, 矢崎 一史, 棟方 涼介. セリ科植物アシタバにおける三環性クマリン類生合成を担うシトクロム P450 酵素遺伝子の機能同定. 第 42 回 日本植物バイオテクノロジー学会, 2025 年 9 月 (神戸) .

平田 佳之, 宇藤 春香, 波片 志保里, 谷口 雅彦. 大棗・酸棗仁に含まれるアルカロイドの成分探索並びに漢方薬に含まれるアポルフィン アルカロイド量について. 第 42 回 和漢医薬学会学術大会, 2025 年 8 月 (広島) .

平田 佳之, 波片 志保里, 谷口 雅彦. 大棗高極性部の成分探索. 第 71 回 年会日本生薬学会, 2025 年 9 月 (熊本) .

平田 佳之, 谷口 雅彦. 指定成分等含有食品中に含まれるアポルフィンアルカロイドの定量. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

新屋 和花, 韓 俊文, 釜田 陽光, 谷口 雅彦, 三浦 謙治, 矢崎 一史, 杉山 暁史, 棟方 涼介. セリ科植物アシタバの三環性クマリン類生合成を担うシトクロム P450 酵素遺伝子の解析. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

村上 能庸, 鳶 幸生, 江村 晃太, 馬場 きみ江, 谷口 雅彦, 古川 福実. オゾン水による室内環境アレルギー関連物質の *in vitro* での失活. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

分子構造化学研究室

学術論文

Ito T, Kato T, Ohoka N, Inoue T, Doi M, Misawa T, Demizu Y. 2026 Jan 23. Helical Template Peptides Containing Cyclic α, α -Disubstituted Amino Acids: Ring-Size Effects on Conformation and siRNA Delivery. *J Org Chem* **91(3)**:1396-1404.
doi:10.1021/acs.joc.5c02648

Zhao S, Wang H, Wang Q, Li X, Ren W. 2025 Sep 26. [Preparation of bacterial outer membrane vesicles modified with anti-angiogenic peptide AP25 on the surface and evaluation of their anti-tumor effects]. *Sheng Wu Gong Cheng Xue Bao* **42(2)**:797-810.
doi:10.13345/j.cjb.250702

学会発表

Ueda A, Makura Y, Kakazu S, Kato T, Umeno T, Hirayama K, Doi M, Oba M, Tanaka M. E-Selective ring-closing metathesis in α -helical stapled peptides incorporating carbocyclic α, α -disubstituted α -amino acids. Pacifichem 2025 Honolulu, 2025 年 12 月 (USA) .

井吉 彬太, 上田 篤志, 梅野 智大, 加藤 巧馬, 平山 和浩, 土井 光暢, 田中 正一. 環状ジ置換アミノ酸を架橋部位とした炭素架橋ペプチド触媒による不斉エポキシ化. 第 35 回 万有福岡シンポジウム, 2025 年 6 月 (福岡) .

Kato T, Danno H, Doi M, Asano A. Evaluation of the effect of the introduction position of disubstituted amino acids on the lipid membrane into amphipathic helical peptides. 第 62 回 ペプチド討論会, 2025 年 10 月 (福岡) .

田中 千裕, 加藤 巧馬, 土井 光暢, 浅野 晶子. ジ置換アミノ酸を導入した両親媒性ヘリカルペプチド K9L9 の脂質膜との相互作用評価. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

福井 智恵, 加藤 巧馬, 土井 光暢, 浅野 晶子. 両親媒性ヘリカルペプチド K9L9 の鎖長を変更した場合の物質輸送能の評価. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

坂尾 菜乃佳, 加藤 巧馬, 土井 光暢, 浅野 晶子. 両親媒性ペプチド RW16 の鎖長変更及びジ置換アミノ酸導入による影響評価. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

加藤 巧馬, 金延 彩太, 土井 光暢, 浅野 晶子. 両親媒性ペプチド Buforin II へのジ置換アミノ酸導入による細胞膜透過性ペプチドの開発. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

植木 麻依, 加藤 巧馬, 土井 光暢, 浅野 晶子. 両親媒性ヘリカルペプチドの疎水性面の角度変化による脂質膜に与える影響の評価. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

薬学教育推進センター

著書

第 10 章, 第 13 章, 第 14 章, ベーシック薬学教科書シリーズ「免疫学 (第 3 版)」, 土屋孝弘 編, 化学同人 (京都) . ISBN: 9784759823967

学会発表

山沖 留美, 落合 りょう, 児玉 直幸, 平田 雅彦. 放射線加工により創製した機能性ヒアルロン酸の BNCT への応用ための基礎研究. 第 21 回 日本中性子捕捉療法学会学術大会, 2025 年 7 月 (長崎) .

山沖 留美. 放射線加工により創製した高機能ヒアルロン酸の BNCT 薬剤への応用. 第 5 回 BNCT 研究会, 2025 年 3 月 (大阪).

山沖 留美, 落合 りょう, 平田 雅彦. 中性子補足療法用ホウ素キャリアとしてのヒアルロン酸の開発. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

総合薬学研究センター

学術論文

Fukuta T, Yoshimura K, Ihara R, Minoura K, Ikeda-Imafuku M, Kadota K. 2025 Jul 10. Intracerebral delivery of the ionic liquid form of edaravone via nose-to-brain delivery route for treating cerebral ischemia/reperfusion injury. *J Control Release* **383**:113834. doi:10.1016/j.jconrel.2025.113834

Yamabe K, Arakawa Y, Shoji M, Miyamoto K, Tsuchiya T, Fujii S, Minoura K, Akeda Y, Tomono K, Fukunaga R, Onda M. 2026 Jan 31. Functional trihydroxyl germanium moiety in THGP confers novel enzyme activity inhibition abilities while also attenuating intracellular effects against multidrug-resistant *Acinetobacter baumannii*. *Metallomics* **18**(1):mfag008. doi:10.1093/mtomcs/mfag008

Tsuchida T, Tsuchiya T, Minoura K, In Y, Miyamoto K, Taniguchi T, Ishida T, Tomoo K. 2025 Dec. Precise ligand-selective mechanism at the fab domain of a tau-recognizing antibody. *J Struct Biol* **217**(4):108250. doi:10.1016/j.jsb.2025.108250

Mo P, Hanaka Y, Ohta S, Nakayama Y, Mawatari Y, Yamanaka S, Minoura K, Doi M, Uchiyama H, Kadota K, Tozuka Y. 2025 Jun 4. Development of Cocrystal and Coamorphous Salts of Moxifloxacin with Artificial Sweeteners to Suppress Bitterness. *Cryst Growth Des* **25**(12):4283-4294. doi:10.1021/acs.cgd.5c00170

Tanaka R, Nagatani M, Togashi R, Minoura K. 2025 Jan. Physically stable cyclodextrin metal-organic frameworks formed via a drug-assisted amorphous to crystal phase transition. *CrystEngComm* **27**(44):7121-7127. doi: 10.1039/D5CE00755K

China H, Kageyama N, Yatabe H, Fujitake M, Matsumoto Y, Jing Z, Dohi T. 2026 Jan 5. Chemoselectively Functionalized Ketoesters by Halogenative C-C Bond Cleavage of Cyclic Diketones. *Molecules* **31**(1):199. doi:10.3390/molecules31010199

Elboray EE, Kashiwagi D, Kikushima K, Fujitake M, Dohi T. 2026 Mar 24. Isocoumarin Synthesis via Metal-Free C-Arylation of Acetoacetates with ortho-Ester-Functionalized Diaryliodonium Salts. *Molecules* **31**(7):1069. doi:10.3390/molecules31071069

学会発表

Ando K, Uchiyama H, Minoura K, Kadota K, Tanaka R, Tozuka Y. Elucidation of the Molecular Assembly Structure and Gelation Mechanism of Monoammonium Glycyrrhizic Acid. The 4th Korea-Japan Young Scientists Workshop on Pharmaceuticals, 2025 年 6 月 (Seoul).

山田 拓磨, 田代 竜, 植村 雅子, 箕浦 克彦, 米田 誠治. カチオン性白金(II)二核錯体と核酸の反応速度論的解析. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

佐々木 紅彩, 杉木 希朱, 山田 拓磨, 田代 竜, 植村 雅子, 箕浦 克彦, 米田 誠治. カチオン性白金(II)二核錯体による一本鎖 DNA の液滴形成と金属有機構造体への応用. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

長谷 美咲, 田仲 涼真, 富樫 龍汰, 箕浦 克彦, 内山 博雅, 田中 俊輔, 門田 和紀, 戸塚 裕一. 噴霧乾燥法による疎水性および親水性薬物を高含有化した CD-MOF 粒子の設計. 日本薬剤学会 第 40 年会, 2025 年 5 月 (東京).

藤嶽 美穂代, 鶴巻 大智, 春沢 信哉. 環状オリゴペプチドのジスルフィド結合数の FAB-MS 解析: シリカゲルによる促進的還元反応. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

藤嶽 美穂代, 鶴巻 大智, 春沢 信哉. 環状オリゴペプチドのジスルフィド結合数の FAB-MS 解析: シリカゲル TLC 板上の促進的還元反応 (その 2). 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

畑中 悠成, 内山 博雅, 田仲 涼真, 平田 雅彦, 戸塚 裕一. 酵素処理ルチンを用いた p-ボロノフェニルアラニンとの複合体製剤の設計. 日本薬剤学会第 40 年会, 2025 年 5 月 (東京) .

畑中 悠成, 内山 博雅, 田仲 涼真, 平田 雅彦, 戸塚 裕一. 酵素処理ルチンを用いた p-ボロノフェニルアラニンとの複合体の設計. 第 21 回 日本中性子捕捉療法学会学術大会, 2025 年 7 月 (長崎) .

山沖 留美, 落合 りょう, 小玉 直幸, 平田 雅彦. 放射線加工により創製した機能性ヒアルロン酸の BNCT への応用のための基礎的検討. 第 21 回 日本中性子捕捉療法学会学術大会, 2025 年 7 月 (長崎) .

山沖 留美, 落合 りょう, 小玉 直幸, 平田 雅彦. 中性子補足療法用ホウ素剤キャリアとしてのヒアルロン酸の開発. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

言語文化学グループ

学術論文

Takei Y, Amagase Y, Goto A, Kambayashi R, Izumi-Nakaseko H, Hirasawa A, Sugiyama A. 2025 Aug. Adipose chemokine ligand CX3CL1 contributes to maintaining the hippocampal BDNF level, and the effect is attenuated in advanced age. *Geroscience* **47(4)**:5969-5983. doi:10.1007/s11357-025-01546-4

総説

Shirafuji R, Amagase Y, Goto A, Takei Y. 2025 Jul 9. Vital Role of Visceral Adipose Tissue in Maintaining Cognitive Functions. *Int J Mol Sci* **26(14)**:6597. doi:10.3390/ijms26146597

解説・プロシーディング・紀要・その他

スミス 朋子, 天ヶ瀬 葉子, 山下 直子, 野口 ジュディー. 2026. 薬学生の英語専門用語習得における語彙サイズとカタカナ語の役割. *大阪医科薬科大学 薬学部雑誌* **5**:51-57.

山下 直子, スミス 朋子. 2026 Mar. 大学で用いられる化学の教科書におけるカタカナ語の使用－索引部にみるカタカナ語を含む語とフレーズの分析－. *香川大学教育学部研究報告* **14**:25-31.

スミス 朋子, 天ヶ瀬 葉子, 山下 直子, 野口 ジュディー. 2026. 薬学生の英語専門用語習得における語彙サイズとカタカナ語の役割. *大阪医科薬科大学 薬学部雑誌* **5**:51-57.

学会発表

スミス 朋子, 天ヶ瀬 葉子, 山下 直子, 野口 ジュディー. 薬学生の英語専門用語習得における語彙サイズとカタカナ語の役割. 第10回 日本薬学教育学会大会, 2025年8月(帝京平成大学 中野キャンパス).

Amagase Y, Smith TY, Hori T, Muraki M, Sakakibara K, Noguchi J. Effective learning of medical terminology with a smartphone app. The 12th Asian Association of Schools of Pharmacy Conference, 2025年8月(日本薬科大学・埼玉).

山下 直子, スミス 朋子. 大学入学共通テスト理科の試験問題にみるカタカナ語の使用分析. 第 2 回 タイ国日本語教育国際シンポジウム, 2026 年 3 月 (タイ) .

スミス 朋子, 天ヶ瀬 葉子, 山下 直子, 野口 ジュディー. 薬学生の英語専門用語習得における語彙サイズとカタカナ語の役割. 第 10 回 日本薬学教育学会大会, 2025 年 8 月 (帝京平成大学 中野キャンパス) .

Amagase Y, Yamashita-Smith T, Hori T, Muraki M, Sakakibara K, Noguchi J. Effective learning of medical terminology with a smartphone app. The 12th Asian Association of Schools of Pharmacy Conference, 2025 年 8 月 (日本薬科大学・埼玉) .

武井 義則, 天ヶ瀬 葉子, 森本 達也. The new role of visceral adipose tissue in regulating BDNF in the hippocampus. 第 103 回 日本生理学会大会, 2026 年 3 月 (東京医科大学) .

天ヶ瀬 葉子, 西村 亜佐子, スミス 朋子. 薬学英語教育がもたらす意識変容-学生アンケートによる授業効果の検討-. 第 75 回 日本薬学会関西支部総会・大会, 2025 年 10 月 (京都) .

天ヶ瀬 葉子, 芝田 信人, 武井 義則. 海馬 BDNF 発現誘導における腹腔細胞の影響. 日本薬学会第 146 年会, 2026 年 3 月 (大阪) .

自然科学グループ

学術論文

Cheng Z, Lyu M, Myo T, Horiuchi H, Toki H, Ren Z, Isaka M, Mao M, Takemoto H, Wan N, You W, Zhao Q. 2025 Mar. Evidence for three- α breathing modes uncovered by control neural network. *Physics Letters B* **864**(19):139397. doi:10.1016/j.physletb.2025.139397

Wan N, Myo T, Takemoto H, Lyu M, Zhao Q, Horiuchi H, Isaka M, Dote A. 2025 May. Investigation on resonances for $3n$ and $4n$ systems using realistic nuclear interaction and inverse analytical continuation in the coupling constant method. *Physics Letters B* **864**:139436. doi:10.1016/j.physletb.2025.139436

Liu Z, Tian J, Lyu M, Isaka M, Doté A, Myo, T Horiuchi H, Takemoto H, Wan N, Zhao Q. 2025 Sep 12. Structural analysis of the states within the “bump” regions in the $10\Lambda\text{Be}$ spectrum via a control neural network. *Phys Rev C* **112**:034314. doi:10.1103/xdvj-hplt

Tian J, Lyu M, Doté A, Cheng Z, Myo T, Isaka M, Horiuchi H, Takemoto H, Toki H, Wan N, Zhao Q. 2026 Mar 2. Cluster-breaking and reconfiguration effects in the $12\Lambda\text{B}$ hypernucleus. *Phys Rev C* **113**:034301. doi:10.1103/t95d-f5x5

Myo T, Lyu M, Zhao Q, Isaka M, Wan N, Takemoto H, Horiuchi H, Dote A. 2025 Dec 22. Shell and cluster structures in 20Ne in the variation of multiple bases of the antisymmetrized molecular dynamics. *Phys Rev C* **112**:064324. doi:10.1103/x667-9yb6

Myo T, Lyu M, Zhao Q, Isaka M, Wan N, Takemoto H, Horiuchi H, Toki H, Dote A. 2026 Jan 5. Quadrupole transitions of 10C and their isospin symmetry with 10Be . *Phys Rev C* **113**:014301. doi:10.1103/vx2s-sh34

Zhu HJ, Lyu MJ, Zhao Q, Tian JQ, Kimura M, Myo T, Horiuchi H, Toki H, Isaka M, Takemoto H, Dote A, Wan N. 2026 Feb. Microscopic study of the asymptotic behavior of the reduced width amplitude in 7Li and 7Be . *Phys Rev C* **113**(2):024309. doi:10.1103/443m-svw9

解説・プロシーディング・紀要・その他

永田 誠, 武井 由智. 2026. Sós 置換に関する Surányi の全単射のある 2 次元版について II.
大阪医科薬科大学 薬学部雑誌 5:5-51.

人間文化学グループ

著書

第3章 薬剤師の社会的使命と法的責任 89-104 頁, 「これからのコミュニティファーマシー [電子版付]」, 恩田 光子・岡田 浩 編, 南江堂 (東京) .

第2章 医療保険制度(1)・第3章 医療保険制度(2)・第13章 薬事制度, 「医療政策学—制度と論点」, 宗前 清貞 編, 法律文化社 (京都) .

環境医療学グループ

学会発表

阪本 恭子. 赤ちゃんポストの過去・現在・未来 — いま、私たちに何ができる？. 大阪府内地域連携プラットフォーム公開講座, 2025 年 8 月（大阪）.

阪本 恭子. 子どもの安楽死 — ドイツの「死への援助」政策における子どもの生の価値評価. 第 44 回 日本医学哲学・倫理学会, 2025 年 9 月（神奈川）.